



高文連

第26号

山口県高等学校文化連盟

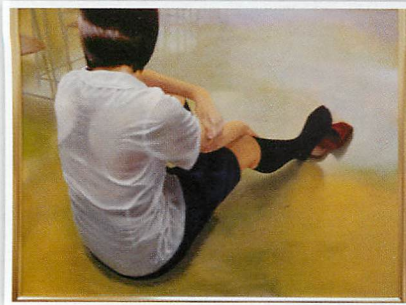
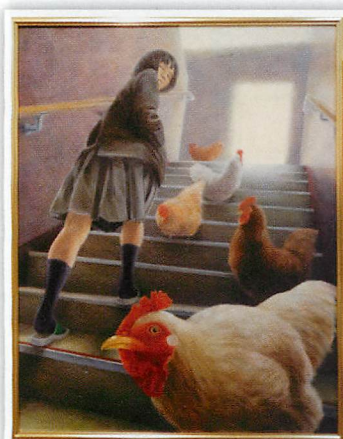
山口県高等学校文化連盟には16の専門部会があります

演劇／器楽・管弦楽／合唱／吹奏楽／マーチングバンド・バトントワリング／日本音楽／吟詠剣詩舞／
美術・工芸／書道／写真／囲碁／将棋／放送／文芸／自然科学／小倉百人一首かるた

平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭開会式は、下関市民会館を会場に行われ、
続いて、音楽4部門、日本音楽と各地で県総文祭が開催されました。



全国高等学校総合文化祭出品作品
書道部門・写真部門・美術・工芸部門



島文連

第 26 号

も く じ

ごあいさつ	1
第36回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（音楽4部門発表会）の報告	2
各部門の報告	
器楽・管弦楽部門	5
合唱部門	7
吹奏楽部門	9
美術・工芸部門	11
書道部門	14
写真部門	16
日本音楽部門	18
囲碁部門	20
演劇部門	22
放送部門	24
将棋部門	26
文芸部門	28
マーチングバンド・バトントワリング部門	30
自然科学部門	31
小倉百人一首かるた部門	33
全国高等学校総合文化祭に参加して	34
自主事業・補助事業の報告	35

参考資料

平成26年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告	43
平成26年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書	44
平成27年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画	45
平成27年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書・調整基金会計予算書	46
山口県高等学校文化連盟規約	47
山口県高等学校文化連盟諸規程	51
山口県高等学校文化連盟表彰規程	52
山口県高等学校文化連盟旅費支給基準	54
平成26・27年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	55
全国高文連の歌	57



ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟

会長 西村 佳子

ここに、平成26年度の山口県高文連の歩みを記した集録ができあがりました。

本連盟は昭和62年6月に発足し今年で28年になります。本連盟は、県内外のさまざまな文化・芸術活動への参加の拠点として、高校生の創造力の育成と豊かな心の醸成を支援しています。高校時代に文化部活動に関わることは、今後の人生の幅を広げ、人間関係やものの見方にも大きな影響を与えと考えます。本連盟は各学校の文化部活動をつなぐ役割を果たしながら、高校生のさまざまな文化芸術活動を支援していきたいと考えています。

さて、本年度の第36回山口県高等学校総合文化祭は、「燃え上がれ創造の炎 伝えよう感動の息吹」をテーマに開催されました。このテーマからは高校生の力強い創造の意欲を感じます。仲間とともに感性を磨き、感動を多くの人と分かち合いたいという願いが込められているような気がします。6月12日には、総合開会式が下関市において盛大に開催されました。当日は、下関市内の高校生が多く会場を埋め、力強く情熱にあふれる高校生の合同演奏を楽しみました。代表生徒の堂々たるあいさつ、慶祝演奏、慶祝展示は、高校生の限りない可能性を感じさせられる、見応え、聞き応えのあるすばらしいものでした。

各専門部の大会は、5月の将棋部門・百人一首かるた部門をスタートとし、11月の美術・工芸部門の大会まで、7か月にわたって県内各地で開催されました。文化部は他校の生徒と一緒に活動する機会が少ないのが実情で、部門別の総合文化祭は生徒同士の貴重な交流の機会となっています。また、各分野の専門家が講師や審査員として招聘され、直接指導に当たってください、文化・芸術の深みに触れることができます。各大会を運営されました主管校や顧問の先生方にこの場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も一層充実した大会にさせていただきますよう、お願い申し上げます。

7月には第38回全国高等学校総合文化祭が茨城県で開催され、本県からは13部門、27校、166名が参加しました。放送部門で華陵高校の吉岡さんが優秀賞を受賞したのをはじめ、どの部門の生徒たちも持てる力を十二分に発揮して、本県を代表するにふさわしい演奏や競技、作品展示をしてくれました。全国のレベルを体感するとともに、他県の生徒たちとの交流も深まり、有意義な5日間となりました。持ち帰った全国の風を日々の活動に生かし、次年度の滋賀大会ではさらにより成果が発揮できるよう頑張っていきたいと思えます。

そのほか、本連盟では高校生が優れた文化や芸術に直接ふれあい感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画し、希望の学校で開催しています。本年は新たにプロとして活躍する本県出身のジャズバンドを補助事業に加え、好評を博しました。今後も、高校生の希望を取り入れながら、より多くの学校に参加していただける文化・芸術活動を積極的に企画していきたいと考えています。

終わりに、本連盟の活動に御支援、御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。発刊の御挨拶といたします。

第36回 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式（音楽 4 部門発表会）の報告

主管校 阿 部 佑一郎
(豊浦高等学校教諭)

総合開会式の記録

平成26年 6 月12日（木）「燃え上がれ創造の炎 つたえよう感動の息吹」のテーマのもと、第36回山口県高等学校総合文化祭の総合開会式が行われました。主管校担当者を代表して報告をさせていただきます。

今年度の総合開会式の運営については、前年度までと大きな違いがありました。それは、総合開会式と音楽 4 部門発表会の主管校が異なる点です。今年度は総合開会式の主管を豊浦高校、音楽 4 部門発表会の主管を下関商業高校が行うことになっていました。通常であれば、それぞれの高校で役割を分担するところですが、発表会場を兼ねていること、慶祝展示を3日間通して行うこと等、仕事の内容に共通部分も多かったため、ほとんどの役割を協力して行う形を取るようになりました。このことにより、負担の大きい仕事は分け合い、一方で会計は一本化して複雑にならないようにするなど、両校の負担を減らしつつスムーズに運営ができたように思います。

実際の運営にあたっては、最初の下関市民会館を会場として予約しました。音楽 4 部門発表会の会場としても使用した下関市民会館の大ホールは、オーケストラピットを組んでもなお1,400近い座席数を誇ります。その十分な集客能力から、多くの生徒が文化活動に触れることができる素晴らしい会場であるといえます。また、下関市民会館は吹奏楽コンクール等、高等学校の行事でもよく使用されている施設ですので、ひな壇をはじめとする設備の使用については職員の方と意思疎通が取りやすく、今後も大会やコンクールで使用している会場で総合開会式を行うと段取りがし易いと思いました。

会場も無事決定し、10月頃より式典の進行について考えることになりました。しかし、ここで大きな問題が出てきました。本校には総合文化祭の

運営を経験している教諭がほとんどいませんでした。本校には、近年芸術科の教諭が1名しかいなかったこと。また、文化部の数が相対的に少ないこともあり、私を含め本校の教諭の多くが高等学校総合文化祭の流れを全く掴めていない状況がありました。そのため、8月に行われた宇部中央高校における引き継ぎの会議以降、高文連関係の会議の度に、慶祝演奏の形態や総合文化祭のテーマ募集の流れ、予算案の組み方、慶祝展示の依頼や展示方法等、大小様々な質問を行い、助言をいただくことに徹しました。本校がこのような状況にありながら、何とか総合開会式当日を迎えることができたのは、質問に対して的確なご指導をくださった高文連事務局および各専門部理事長の先生方のおかげです。大変お世話になりました。

総合開会式の準備がようやく軌道に乗り、外枠が組みあがってきた頃、新たな問題がでてきました。残された電子データやファイルだけでは、前日準備や当日の人の動き・演奏の流れがイメージできなかったのです。この点に関しては、下関地区の芸術に関わる先生方のお力添えが大きかったように思います。下関市民会館には（422平方メートルの）慶祝展示をするには十分な広さの展示室があります。各専門部理事長の先生には、地区の先生へ声掛けをしていただき、この部屋が生徒の作品で一杯になるほどの出品をしていただいた他、作品のレイアウトにも御協力頂きました。一方、総合開会式全般については、地区役員の先生のアドバイスが非常に役立ちました。下関地区が前回主管（長府高校）となった際、地区役員を引き受けられたほとんどの先生が、今回も役員として参加してくださいました。おかげで年度内に決定しておくことよいこと、新年度に決めることを早々に分類し、早々に相談・解決することができました。例えば、下関地域吹奏楽団の慶祝演奏に関しては、

前年度のうちに早鞆高校の松井先生に指揮者を引き受けていただきました。ご無理をお願いすることになりましたが、新年度に慌てて指揮者や曲目を決定する必要がなくなり、演奏生徒の募集や楽譜の配布等の準備が2月末から始められました。その結果、3月末には下関地域合同吹奏楽団が結成され、各校で慶祝演奏に向けての練習時間を十分確保することができました。新年度になった後も教員側が余裕をもって対応できたため、合同練習および当日の演奏が参加生徒にとって充実したものになったという話を聞くことができました。

総合開会式当日の動員については、本校の生徒は1、2学年の参加でした。これだけでは会場の座席は埋まりませんので、前年度の1月頃より学校長を通じて各高等学校に呼びかけさせていただきました。学校行事や授業の調整、またバスの配車や予算等多方面に御迷惑もお掛けしましたが、下関地域の高等学校の協力により、約1,400席の座席の9割近くが埋まりました。下関地区の引き受けは数年に一度ですが、多くの生徒が文化的活動に触れられることは充実した機会になったと思います。各高等学校におきましては、引率の先生方のご協力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度主管校を引き受けるにあたり強く感じたことは、「人とのつながり」です。総合開会式の主管は豊浦高校でしたが、実際は高文連事務局や各専門部理事長、下関地域の先生方の助言・尽力なしでは無事に実施することができなかったと思います。さらには、補助員として協力いただいた生徒の皆さん、総合開会式に参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。皆さん一人ひとりの協力によって、平成26年度の総合文化祭の総合開会式を無事に行うことができましたことに心から感謝しています。

◎式典 次第

◇開会宣言 西本 昂平（豊浦高等学校）

◇ファンファーレ

◇専門部紹介

演劇 器楽・管弦楽 合唱 吹奏楽

マーチングバンド・バトントワリング

日本音楽 吟詠剣詩舞 美術・工芸 書道

写真 囲碁 将棋 放送 文芸 自然科学
小倉百人一首かるた（以上16部門）

◇主催者挨拶

山口県高等学校文化連盟会長 西村 佳子

山口県教育委員会教育長 浅原 司

（代理 廣川 晋 審議監）

豊浦高等学校生徒代表 中司 真実

◇歓迎の言葉

下関市長 中尾 友昭

◇来賓紹介

◇表 彰

○功績賞 該当なし

○優秀芸術文化賞 該当なし

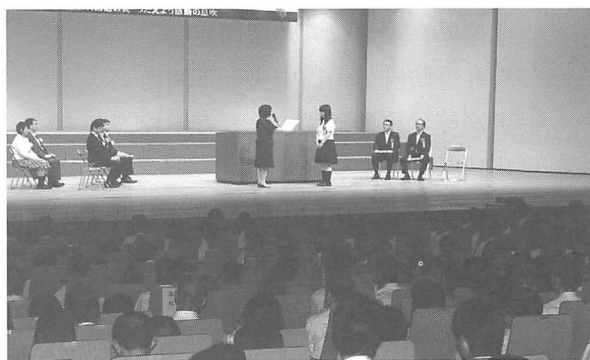
○テーマ最優秀賞 橋本 千里

（柳井学園高等学校）

【進行】豊浦高等学校生徒会

【ポスター原画製作者】 宮崎 菖子

（豊浦高等学校）



◎慶祝演奏

◇マーチングバンド 『カーン イービル9』

【演奏】山口県鴻城高等学校

〈指揮〉内田 良一（山口県鴻城高等学校）



◇日本音楽 『螺鈿』

【演奏】下関短期大学附属高等学校



◇吹奏楽 『アルメニアン・ダンス パートⅠ』

【演奏】下関地域高等学校吹奏楽団

（長府 下関西 下関工業 響 豊北
下関商業 早鞆 豊浦 各高等学校）

〈指揮〉松井 友介（早鞆高等学校）

◇器楽・管弦楽・合唱

『カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」』

『交響詩「フィンランディア」』

『翼をください』

【演奏】山口県高等学校管弦楽団・合唱団

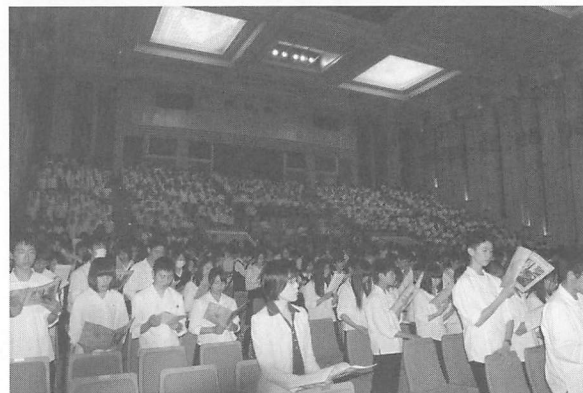
〔山口県高等学校管弦楽団〕

柳井 防府 山口中央 下関南
各高等学校 下関中等教育学校

〔山口県高等学校合唱団〕

岩国 防府 山口中央 宇部中央 萩
野田学園 慶進 萩光塩学院 各高等学校

〈指揮〉中村 一（下関商業高等学校）



◎慶祝展示

【作品展示】

◇美術・工芸

田部 長府 下関南 下関商業 豊浦
各高等学校 下関中等教育学校

◇書道

長府 下関西 下関南 下関商業 各高等学校
下関中等教育学校

◇写真

新南陽 下関西 各高等学校

【大会風景・文芸誌展示】

◇文芸

【大会風景】

◇囲碁 将棋 放送 自然科学 小倉百人一首か
るた



各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 飯田 幸生
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1 平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏

＊6月12日(木)

＊合同演奏

佐藤 真作曲「大地讃頌」

シリベウス作曲 交響詩「フィンランディア」

村井 邦彦作曲「翼をください」

指揮：中村 一

＊参加出演／器楽・管弦楽部門



2 平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

＊6月13日(金)・14日(土)

＊参加各校による弦楽・ギター・マンドリン・管弦楽の演奏

＊参加出演／6校 260名

3 第38回全国総合文化祭

＊7月28日(月)・29日(火)

＊つくば市：ノバホール

＊山口県立防府高等学校が県代表として参加

＊チャイコフスキー作曲

「弦楽のためのセレナーデ」

アンダーソン作曲

「Plink Plank Plunk」

4 平成26年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会

＊12月8日(月)

＊下関南高等学校会議室

部会長以下出席者6名

＊第34回器楽・管弦楽スプリングコンサート
(柳井大会)、県総文、全総文、高文連表彰、
役員改選などについて協議

5 第34回器楽・管弦楽スプリングコンサート

＊平成27年3月28日(土)

＊柳井市サンビームやない

＊参加6校によるギター・マンドリン・管弦楽
などの演奏

今年度の全国総合文化祭茨城大会では、本県代表の防府高等学校が素晴らしい演奏を披露いたしました。本県の器楽・管弦楽のレベルは全国的に見ても、高いものだと思います。次年度以降もますます発展していくことを確信しています。

6 全国総文祭の記録

会場：ノバホール
山口県立防府高等学校弦楽部
部長 植田 麻友

私たち山口県立防府高等学校弦楽部は、現在2年生17人、1年生10人の計27人で毎日明るく楽しく練習に励んでいます。このたび、第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会に山口県の代表として参加させていただきました。

初めにお話をいただいたときは、大きな舞台上で弾いてみたいという期待と、私たちが参加しても良いのかという不安がありました。しかし、せっかくだいたお話を無駄にしたいくはないという気持ちが大きく、出場させていただくからには精一杯演奏をする、その気持ちで練習に励みました。

私たちは、チャイコフスキー作曲“弦楽のためのセレナーデ”より第4楽章、アンダーソン作曲“Plink Plank Plunk”の2曲を、3年生8人、2年生16人、1年生11人の計35人で演奏しました。特に、“弦楽のためのセレナーデ”は、私たちにとって非常に難曲でしたが、そのたびに「やるからにはやる」という決意を思い出し、練習に挑みました。しかし練習を重ねれば重ねるほど、目指すレベルにほど遠いと感じ、これでは舞台上に立てないと思うようになっていたのです。そのようなとき、前日のリハーサルで、他県の

弦楽の演奏を聴く機会がありました。演奏のレベルも高いものでしたが、何よりも生き生きと、楽しく演奏しているように見えました。大舞台上に緊張していた私たちでしたが、その演奏を見て、私たちなりの演奏をし、二度とない舞台を楽しもうと決意しました。

演奏し終えた直後、大きな拍手をいただき、すがすがしい気持ちで舞台を降りることができました。今までで一番演奏を楽しむことができたと思います。後日いただいたCDで聴いても、私たちなりの最高の演奏だと感じました。素晴らしい大会で、素晴らしいホールで、全国の高いレベルの音楽に触れながら演奏できたことを誇りに思います。

この全国総文は、私たちの中で大きなターニングポイントになりました。練習に対する気持ちはもちろん、全国を冠する大会で弾くことによって、誰かに聴いていただくという意識ができたと思います。実際に練習方法を改善するなど、全国総文に参加させていただいた経験を活かして次の舞台へ備えています。ここまで私たちが成長できたのは、お話を下さった文化連盟の方々、角中先生、前顧問の藤岡先生、顧問の宇根先生、いつも支えて下さる先生方、先輩方、同級後輩の仲間達、そして何より指揮を振って下さった八木先生のおかげです。皆様に感謝するとともに、これからも精進したいと思います。



各部門の報告

合唱部門

理事長 田 中 睦
(野田学園高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟合唱部門では、今年度次のような事業を行いました。

1. 各部門の活動報告

(1) 平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭開闭幕式において慶祝演奏

- ・ 6月12日(木)
- ・ 山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
- ・ 曲 目／「フィンランディア賛歌」
“カンタータ《土の歌》より
「大地讃頌」”
- ・ 山口県高等学校合唱団／ 8校 156名
- ・ 下関市民会館



(2) 平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・ 6月13日(金)・14日(土)
- ・ 下関市民会館
- ・ 合唱部門出演者／7校 183名

(3) 第38回全国高等学校総合文化祭

- ・ 7月31日(木)

・ ノバホール (茨城県つくば市)

・ 山口県代表／山口県立宇部中央高等学校

(4) 山口県高等学校合唱講習会

- ・ 平成26年5月26日(日)
- ・ 講 師／雨 森 文 也 (合唱指揮者)
- ・ 内 容／総合開会式慶祝演奏に向けての演奏技術向上のための講習会
- ・ 曲 目／「フィンランディア賛歌」
“カンタータ《土の歌》より
「大地讃頌」”
「鴉」

・ 場 所／ニューメディアプラザ山口

・ 参 加 者／9校 195名

(5) 平成26年度山口県高等学校文化連盟合唱部会及び研修会

- ・ 平成27年1月21日(水)
- ・ 野田学園高等学校4階ゼミ室
- ・ 出席者／部会長以下6名
- ・ 議 題／県総文、全総文、高文連表彰などについて

2. 山口県高等学校総合文化祭の記録

会場：下関市民会館

平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月12日(木)「下関市民会館」にて盛大に開催されました。例年のように、器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。今年度は、昨年度まで演奏の「ハレルヤ・コーラス」に変えて、シベリウス作曲「フィンランディア賛歌」を新たに挑戦しました。オーケストラと共に、8校156名の大会合唱は、ホール一杯に美しく響き渡り、生徒達の緊張の中にも熱い気持ちの入った伸び伸びとした演奏は、満員の聴衆の方々にも深い感銘を与えたことと思います。日頃小人数で部活動を

している生徒が多いため、他校との合同合唱は勿論のこと、オーケストラとの共演はとても貴重な体験になりました。

また、翌日からの音楽4部門の発表は、6月13日(金)、14日(土)の2日間、高校生の熱気あふれる演奏が続きました。合唱部門の出演は、7校173名であり、各校よく工夫されたプログラムで、美しく柔らかい歌声が響き渡り、個性あふれる演奏を披露しました。

例年、合唱部の廃部・休部による参加校の減少が問題でしたが、近年男子部員の増加や新しく参加される高校があるなど、明るい話題となっています。今後も生徒数の減少や指導者不足等の問題はありますが、この総合文化祭を契機に益々一人でも多くの合唱仲間が増えるよう、願っています。来年度の「ルネッサながと」でも、素晴らしい演奏を期待しています。

3. 全国高総文祭の記録

会場：ノバホール

山口県立宇部中央高等学校合唱部

3年 小笠原就斗

このたび、私たち山口県立宇部中央高等学校合唱部は、「第38回全国高等学校総合文化祭いばらき総文2014」の合唱部門に、山口県の代表として出場させていただきました。その知らせを聞いたときは耳を疑い、何度も聞き直したことを今でもはっきり覚えています。私たちにとって、初めての全国大会出場ですから、とてもうれしかった反面、大きな舞台に立つということで強い不安、緊張を感じました。個人的な感想になりますが、新幹線に乗車するのも初めてでしたので、こちらもうれしい反面、不安や緊張がありました。そういう意味でも貴重な体験になりました。

私たちが演奏した曲は、「共演者」と、映画「アナと雪の女王」で使われた「LET IT GO」の2曲です。「共演者」は本年度のNHK全国学校音楽コンクールの課題曲で、全国高校総文という晴れ舞台で歌う機会をいただいたので、自分たちを高めようと思い、歌わせていただきました。2曲目の「LET IT GO」は、今年話題になった曲で、この曲なら皆さんがよくご

存じだと思い、自分たちで振り付けを考え、ダンスを付けて、聴いていても見ていても楽しめるように努力し、歌わせていただきました。

本番当日は、日本全国からたくさんの合唱団が集まりました。各都道府県の魅力や名産品の紹介等のプレゼンテーションを見たり、ふだんあまり交流のない地域の方々の演奏を聴くことができたので、とても勉強になったと同時に、良い刺激を受けました。

私たちの演奏は、「共演者」ではとても緊張して声が出るか不安でしたが、皆さんが温かく見守ってくださったおかげで気持ち良く歌い続けることができました。また、「LET IT GO」では驚くほど皆さんがノリノリになってくださったので、緊張も吹っ飛び、私たちも楽しみながら歌って踊ることができました。演奏が終了すると、温かい拍手を送っていただき、音楽ってすばらしいなと改めて感じました。

初めての全国という舞台で、こんなにも楽しく過ごすことができたのは、茨城県の方々をはじめ、先生方、出場した高校の皆さん、また支えてくださった周囲の人たちや家族があっからこそだと思います。本当にありがとうございました。

今回、全国高総文祭に出場することによって、本当に多くのことを学ぶことができました。この貴重な経験を、今後の部活動に生かし、更にレベルアップを図っていききたいと思います。これからも御指導よろしくお願いいたします。



各部門の報告

吹奏楽部門

理事長 志 道 博 資
(宇部高等学校教諭)

1 部門の活動報告

平成26年度の吹奏楽専門部の活動を報告いたします。

(1) 県高等学校総合文化祭総合開会式式典においての慶祝演奏

- *開催日 6月12日(木)
- *会場 下関市民会館
- *参加演奏 下関地域高等学校吹奏楽団
約100名
- *演奏曲目 「アルメニアン・ダンス パートⅠ」 A. リード 作曲
- *指揮 松井友介(早鞆高等学校)

(2) 県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会・連合音楽会

- *開催日 6月13日(金)・14日(土)
- *会場 下関市民会館
- *参加演奏 50団体 1,654名

(3) 全国高等学校総合文化祭

- *開催日 7月30日(水)・31日(木)

- *会場 茨城県水戸市
茨城県立県民文化センター
- *参加演奏 山口県立高森高等学校・高森
みどり中学校吹奏楽部
(1日目プログラム3番)
- *演奏曲目 歌劇「トスカ」第三幕
G.プッチーニ 作曲
飯島俊成 編曲
- *指揮 石井啓登
(高森高等学校・高森みどり
中学校吹奏楽部顧問教諭)

(4) 吹奏楽専門部総会・研修会

- *開催日 12月2日(火)(総会)
平成27年3月8日(日)(研修会)
- *会場 宇部高等学校会議室(総会)
防府高等学校音楽室(研修会)
- *参加人数 33名
- *講師 河添達也 先生
(島根大学教育学部教授)



2 山口県高等学校総合文化祭の記録

平成26年度第36回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が6月12日(木)に、下関市の下関市民会館で開催されました。開会式典での慶祝演奏には、下関市内にある高等学校の吹奏楽部員から、約100名を選抜した合同吹奏楽団が、下関地域高等学校吹奏楽団として本専門部を代表して参加いたしました。本番では早鞆高校の松井友介先生の指揮により、A. リード作曲の「アルメニアン・ダンス パートⅠ」を、華やかさと優雅さ、そして、若く生き活きとした感性を

持って演奏いたしました。

また、6月13日(金)と14日(土)には、同会場において音楽4部門発表会を開催いたしました。この2日間で50団体1,654名が、練習の成果を発揮して立派な演奏を披露いたしました。演奏をする生徒同士は勿論のことそれを聴く人たちも、みんなで感動の息吹を伝え合うことができた2日間でした。最終日には下関商業高等学校吹奏楽部の伴奏により、「翼をください」を全員で合唱いたしました。



3 第38回全国高等学校総合文化祭の記録

山口県立高森高等学校・高森みどり中学校
吹奏楽部
顧問 石井 啓登

平成26年7月30日(水)、31日(木)の両日、茨城県水戸市の茨城県立県民文化センターにて、第38回全国総合文化祭「いばらき総文2014」の吹奏楽部門が開催されました。高森高等学校吹奏楽

部は、高森みどり中学校吹奏楽部と合同で、第1日目に出演しました。ジャコモ・プッチーニ作曲の【歌劇「トスカ」より 第三幕】を演奏し、思い出に残るステージとなりました。部員全員では初めての県外遠征で、この演奏会への参加は我々の誇りと自信になり、素晴らしい時間を過ごすことができました。



各部門の報告

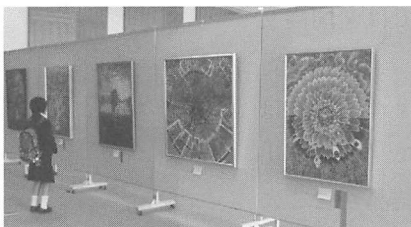
美術・工芸部門

理事長 濱 崎 洋
(柳井高等学校教諭)

平成26年度美術・工芸部門の活動について報告いたします。

1 山口県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

11月14日から16日まで宇部市のときわ湖水ホールで開催されました。美術・工芸部門には県内36校より131点の出品がありました。内訳は平面127点、立体4点です。レベルの高い大作が多く、平面では約8割の作品がF50やB1の出品規定最大のサイズでした。審査では27点が優秀賞に選ばれ、



その中から6点が来年度の全国高等学校総合文化祭〈滋賀大会〉の出品候補作品に選ばれました。講評会では審査員5名の先生から優秀作品1点1点について、その良さや制作方法などについて話があり、生徒たちは互いの作品を鑑賞し合うことで視野を広げることができ、今後の表現活動のよい原動力となりました。

受賞者一覧

優 秀 賞 (全国高総文祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
熊毛南高等学校	森 永 七 海	1	ダリア	F 50 縦	絵画
山口中央高等学校	山 田 紗矢佳	2	学徒	B1 縦	デザイン
豊 浦 高 等 学 校	宮 崎 菖 子	2	kitsch	F 50 横	平面絵画
下関南高等学校	西 野 里 咲	2	Hello!!	F 50 縦	絵画
下関中等教育学校	阿 部 泉 水	2	進化	B1 横	デザイン
下関商業高等学校	開 道 稚 晴	2	静けさ・響き	F 50 縦	絵画

優 秀 賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩 国 高 等 学 校	松 村 眞 古	2	ポンポコーン	50cm×70cm×高70cm	立体
岩 国 高 等 学 校	湯 場 伊吹季	2	本の世界	S 50	絵画
岩 国 高 等 学 校	浜 重 怜 奈	1	流れ	F 30 縦	絵画
岩国総合高等学校	河 野 早也香	3	美しい病	F 30 横	平面・絵画
光 丘 高 等 学 校	宮 田 彩 未	2	ごちそうさま。	F 50 横	絵画
光 丘 高 等 学 校	杉 村 美奈貴	3	ひとり	F 50 縦	絵画
光 丘 高 等 学 校	山 本 法 子	3	ふたり	F 50 縦	絵画
山 口 高 等 学 校	狩 集 沙 紀	2	千本中立売	B1 縦	デザイン
宇 部 高 等 学 校	中 嶋 み ゆ	2	存在意義	F 50 縦	平面絵画
宇部西高等学校	河 村 信 吾	2	海中遊泳	F 50 縦	絵画
小野田高等学校	花 田 真 衣	2	架空世界	B1 横	絵画
下関西高等学校	波多野 彩 加	2	雫	F 50 縦	平面・絵画
下関南高等学校	立 花 唯 香	2	逆行	F 50 横	絵画
下関中等教育学校	吉 坂 夏 保	2	千歳	F 50 横	絵画(油彩)
下関中等教育学校	新 宅 楓	2	深更	B1 横	絵画(水彩)
下関中等教育学校	古 谷 穂波美	1	月輪独歩	F 50 横	絵画(油彩)
下関商業高等学校	徳 永 仁 美	2	無警戒	B1 横	デザイン
下関商業高等学校	光 山 晶 梨	2	困惑	F 50 横	絵画
サビエル高等学校	沖 村 明日香	3	illumination	B1 縦	平面デザイン
サビエル高等学校	山 室 依里奈	3	NOBU	F 50 縦	平面絵画
サビエル高等学校	安 田 佳 穂	2	夏の終わり	B1 縦	平面デザイン

2 全国高等学校総合文化祭〈茨城大会〉美術・工芸部門

平成26年7月27日(日)～7月31日(木)の5日間、全国の都道府県で選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像等406点の優秀作品が、茨城県近代美術館に展示されました。その中にあって、本県から出品した作品6点はそれぞれに作者の思いや気持ちが込められた完成度の高い作品として全国にアピールしていました。全国のレベルの高い作品を鑑賞した本県7名の生徒も、視野が広がり、感情を豊かにし、今後の表現力を高める原動力になったことと思います。

部門開会式、アトラクション、講演・講評会は美術館に隣接する茨城県立県民文化センターのホールで行われました。開会式では全国高文連美術・工芸の三好正志会長から、「この展覧会で学んでほしいのは表現するテクニックではない。人の思い、感受性、新しいモノを作り出す創造力、挑戦するパワー、その結晶がここに展示されている。作品には作者の働きかけた跡や息づかいがある。写真を撮って先を急ぐのではなく、作品を前にして生々しい制作の跡を追ひ、作者の思いや息づかいを追体験することで創造の喜びを共感してほしい。作品を鑑賞することは様々な個性に出会うこと。それはより確かな自分を見つけ出すことにつながる。それは新しい自分の発見でもある。」という内容のあいさつがありました。

講演会・講評会には東京藝術大学教授でアーティストの日比野克彦さんをお迎えして、特に演題はなく、日比野さんの高校時代のことや、美術に進むきっかけになったこと、美術を通してやっている活動やできることをお話しされ、最後に数点の生徒作品について講評がありました。

交流会では全国からの参加生徒と、茨城県の生徒が5名程度の班になり、「全国展鑑賞会」と「水府提灯(すいふちょうちん)」づくりをおこないました。「全国展鑑賞会」では、班ごとに自分の作品の前で、作品についての思いや制作過程などについて話をし、鑑賞者はコメントを書いて作者に渡す方法でお互いの作品を鑑賞し合いました。「水府提灯」づくりでは、茨

城県で350年の歴史を持つ西ノ内和紙で水府提灯にあらかじめデザインした柄などを貼り付けて飾り付けをしました。できあがった水府提灯は記念に持ち帰りました。



以下、参加した生徒のみなさんより感想をいただいています。

山口県立柳井高等学校 3年 竹谷 美希

題名「日常」

全国の高校生の絵を生で見、そして作者の説明を聞く事が出来たのは新鮮で、描き手によって異なる光る個性に感銘を受けました。また、私自身の絵について説明することで初めて絵を客観的に見ることができ、絵画に対する視野が広がったように思いました。貴重な経験をさせていただいたことに感謝しながら、これからも絵を描いていきたいです。

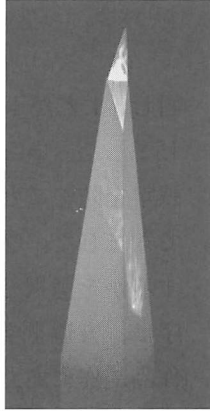


山口県立下松高等学校 3年 近藤 冴夏

3年 坂口 美波

題名「海燈籠」

私達が茨城全総文に参加させていただいて、感じたのは作品のレベルの高さでした。徹底した細部の描き込み、何日かかったか…複雑な作品など、県内にいるだけでは到底出会わない高いレベルの作品ばかりでした。作品は人に見せて初めて作品として完成なのだと実感もしました。全国展に直接行くことができて良かったです。ありがとうございました。



山口県立宇部高等学校 3年 西田 由香

題名「ねころぶ」

今回の大会では、全国から選ばれた様々な作品に触れることができ、大変良い経験になりました。交流会では、作品の作者から直接話を聞いたり、自分の作品についての感想を聞くことで、新しい発見や発想などを知ることができて、とても参考になりました。この2日間の貴重な体験で学んだことを、これからの色々な場面で活かしていきたいです。



サビエル高等学校 3年 沖村 明日香

題名「誕生」

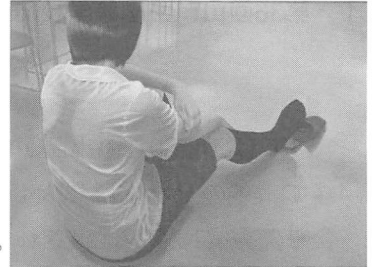
全国の高校生の作品を鑑賞して、自分とは違うタイプの作品をたくさん見ることができ、とても楽しかったです。立体、映像などの作品もゆっくり見ることができました。班の人達ともすぐに仲良くなることができ、作品についての講評会、提灯作りなど、すごく盛り上がり、忘れられない貴重な経験となりました。



山口県立下関南高等学校 3年 阿武 未奈子

題名「素直になれない」

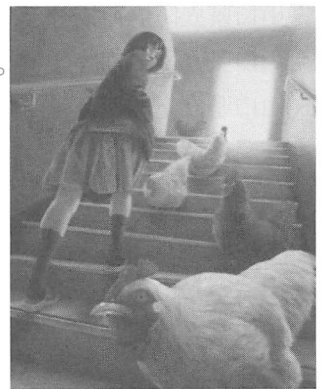
私にとって、茨城での全国高等学校総合文化祭はとても刺激になりました。他の代表作品を見て、そして作品への思いを実際に聞いてまだまだ勉強しなければいけないと思いました。一気に世界が広がった気分でした。交流会では友人もたくさんでき、作品について話し合ったり提灯を作ったり、とても楽しかったです。たいへんいい経験になりました。



山口県立下関中等教育学校 3年 小西 菜々

題名「不安侵鴉症」

全国各地から選ばれた作品に触れ、多くの刺激を受けました。特に、フロアーに並んだ数々の立体作品を間近に見た時の衝撃は忘れられません。交流会では制作への思いを、その作品の作者と情報交換することで、より深く鑑賞できました。また、そんな環境の中で自分の絵を改めて客観的にみることができました。今回の貴重な経験をこれからの制作に活かしていきたいと思っています。



3 美術・工芸専門部連絡協議会および研修会

10月9日に柳井高等学校で行いました。協議会では今後の美術・工芸の大会運営や、県総文祭美術・工芸の審査方法について意見交換がなされました。研修会では、全国大会の作品を一点一点スライドで、多様なレベルの高い作品を観ることで今後の指導の参考にしました。また、サビエル高等学校の美術部の活動について研究発表がありました。

各部門の報告

書道部門

理事長 河 合 和 子
(下関西高等学校教諭)

1 第36回山口県高等学校総合文化祭

11月8日(土)・9日(日)

宇部市文化会館

今年は20校80点の出品があり、厳正な審査を経て来年の全総文滋賀大会への出品候補4点を含む優秀賞12点が選出されました。同会場の別室では教員書作展も開催され、多くの観覧者を迎えて盛会な大会となりました。講評会では審査員の先生方のアドバイスをいただき、参加生徒は次に向けての活動意欲を感じてくれたことと思います。

受賞者一覧

《優秀賞・第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会出品候補作品》

山口県立防府西高等学校	1年	岡田 萌
山口県立山口高等学校	2年	大谷 菜々
山口県立下関西高等学校	1年	高木 美空
下関商業高等学校	2年	川杉 七瀬

《優秀賞》

山口県立岩国高等学校	3年	木村 花鈴
山口県立山口高等学校	2年	西村さくら
山口県立下関西高等学校	1年	江尻 茅穂
山口県立下関南高等学校	2年	岩本優衣翔
山口県立下関中等教育学校	2年	田淵 愛実
下関商業高等学校	2年	矢羽田桃花
野田学園高等学校	2年	北村かおり
慶進高等学校	2年	工藤 純平

2 第16回高文連書道部会生徒研修会

9月20日(土)・21日(日)

山口県セミナーパーク

今年度の生徒研修会は、生徒60名、教員13名、合計73名と多くの参加者を得て、2日間に渡って開催することができました。

1日目は、共同作品として蘭亭序の分刻を企

画し、1人が1字ずつ分担して篆刻作品を制作しました。あらかじめ布字をしたことにより、誤字を防ぐことと、作品の統一感を出すことができました。参加者は、朱文にするか、白文にするかを選択し、真剣に制作をしました。蘭亭序は、書道を学ぶ人にとって大切な古典です。作品制作にあたり、山口高校の有富先生に蘭亭序の解説をしていただきました。午後は、県総合文化祭の出品作他の練習と講評会でした。王羲之が蘭亭序に書き残したように、人が集まり楽しく過ごすことの大切さを、研修会を通して生徒は実感できたのではないのでしょうか。

2日目は、班別で一字大書の創作と講評会を行いました。他校の生徒と過ごす2日間は、緊張感があり、たくさんの刺激を受けます。初めて出会う生徒が、書道の研修の中で、お互いに心を開き、仲間として信頼し、自分の力を出し切ることができるような充実の研修会だったと思います。生徒の中には、3回目の参加となる人もいて、よく協力してくれ、スムーズに運営することができました。来年からもこうした研修の機会を設けたいと思っています。



3 第38回全国高等学校総合文化祭（茨城大会）

7月27日(日)～31日(木)

県立県民文化センター（水戸市）

本年度の全国高等学校総合文化祭は、茨城県にて、「いばらき総文2014」の名称で、テーマを「創造の花を咲かせよ 聳（そび）える筑波嶺 吹き抜ける文化の風」として開催されました。

書道部門には、全国から選抜された313点の作品が出品されました。漢字・仮名・漢字仮名交じり、篆刻や刻字などのジャンル、また表現方法もびっくりするような大きさの少字数創作から細字での多字数や仮名の全臨など、多種多様な作品群に圧倒されるばかりで、練習と作品制作に掛けた時間と熱意に胸が熱くなる思いでした。交流会は、水戸にちなんで『印籠』を制作し、翌日の講評会では、講評者がいくつかの作品を取り上げて、解説・講評する形式で、よい鑑賞学習の機会となりました。全国から集まった同じ高校生の作品と人物に触れ、視野を広げる素晴らしい大会だったと思います。山口県からは、県内の総合文化祭で選出された、長府高校、山口高校、下関商業高校、野田学園高校の4校が、県代表として出品しました。以下に参加者の感想を付します。

いばらき総文に参加して

臨「伊都内親王願文」

長府高等学校 3年 尾崎奈緒子

私はいばらき総文で全国の高校生の作品を見てこんなにも様々な書体や表現の仕方があるのだなと改めて感じました。また、同じ臨書でも、都道府県によって文字の力強さや印象がそれぞれ違っていたので、そのような所も書道ならではの面白さだと感じました。レクリエーションでは各地方の高校生と一緒に印籠に文字を書いたり、作品を書いた際の苦労話などをし、総文でしか味わえない経験ができた本当によかったです。今回の体験で書道の面白さや奥深さを知り、もっといろいろな書体でたくさんの作品を書いてみたいと思いました。この経験を忘れずに、これからも書道活動を頑張っていきたいです。

臨「伊都内親王願文」

山口高等学校 3年 和田 茉莉

茨城県で開催された全総文祭への参加を通して、書道の魅力を改めて感じることができました。全国から集まった、完成度の高い作品の数々に圧倒され、また書き手それぞれの古典のとらえ方や構成の違いによって、同じ古典でも様々な表現があることを知りました。まだ挑戦したことのない古典や構成を間近で見ることができ、これからの作品制作のよい刺激となりました。

「書」に対する思いがより一層強くなった今、このような貴重な機会をいただけたことを心から感謝しています。大会に向けての練習や全国の高校生の作品を見て学んだ技術、そして「書道」の楽しさを忘れずに、これからも書道を続けていきたいと思います。

臨「蘭亭序」

下関商業高等学校 3年 西嶋 真実

私は茨城県で開催された「全国高等学校総合文化祭」に参加しました。水戸市の会場には、全国から出品された300点以上の作品が展示されており、全国の凄さに圧倒され、書道の奥深さに魅了されました。また、交流会では印籠を製作する貴重な体験をし、他県の友達もできたので、とてもよい思い出になりました。講評会では、私の作品がスクリーンに映し出されたので、とてもびっくりしましたが、講評して頂き、充実した時間を過ごす事ができて嬉しかったです。全国大会に出場することができたのは、応援してくださった先生方をはじめ、支えてくれた部員、友達や家族のお陰です。これから、この経験を生かして何事にも挑戦していきたいと思います。本当にありがとうございました。



各部門の報告

写真部門

理事長 尾崎 勝利
(新南陽高等学校教諭)

平成26年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1. 平成26年度第38回全国高等学校総合文化祭(茨城大会) 写真部門

全国高校総文写真部門は全国展・企画展が7月27～31日の期間に、つくば市の茨城県つくば美術館で行われました(全国展307点・日韓交流写真展作品12点・茨城県企画展作品62点)。各都道府県の代表作品による全国展は、優れた作品が数多くあり、写真の取り組みに対する意識の高さが感じられました。

なお全国展における山口県からの出品作品の入賞は残念ながらありませんでした。次回以降に期待したいと思います。



2. 第36回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月7(金)～9(日)周南市ふれあいセンターにて県総文展示部門の作品展示が行われました。写真部門は平成22年度からデジタル作品も選考の対象として以来初めて、すべての作品がデジタル作品となりました。今年度は昨年並みの147点の作品が集まりました。これまで90点(H22)、123点(H23)、127点(H24)、149点(H25)と増加傾向ではありますが、他県の取り組みと比較して、まだまだ活発であるとは言えない状況であり、写真部数の減少によって参加校数に増加は見られない状況です。また、

昨年に引き続き、審査員としてプロカメラマンである(社)日本写真家協会会員のタカオカ邦彦氏を迎え、プロによる評価・講評を続けています。審査の結果15点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文滋賀大会への出品候補作品となりました。最終日の講評会ではタカオカ氏からのていねいな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

毎年行っている取り組みとして、県高校写真部員の作品として、「自分」をテーマ(昨年度テーマは「光と影」)とした作品撮影・作品展示を行いました。自分を撮影するだけでなく、自分の生き方・考え・心境を象徴するもの、自分が打ち込んでいるもの、人物・風景・生物・静物など「自分」というテーマを思い思いに解釈して制作された作品が展示されました。準備・運営に携わってくださった役員の先生方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。



3. 写真研修会・提出作品の講評会

展示部門の会期最終日に周南市ふれあいセンターに於いて、タカオカ邦彦氏による写真研修会があり、昨年と同様50名あまりの参加がありました。参加生徒は「自分」（企画展示作品と同テーマ）をテーマとした作品を提出し、一人ひとりの作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、参加生徒からの質問や意見交換、その後に講師からの講評・アドバイスを受けるという対話重視の研修を体験しました。考えた上で撮影に取り組んだ結果の作品は山口県の高校生カメラマンのレベルアップを期待させるものでした。

また、2月には生徒・顧問から提出された作品に対して、タカオカ氏による作品講評がなされる、という形での研修会を行います。

今後も同様な形で研修会を開催し、写真部員の技術向上に役立てたいと考えています。

4. その他の活動

8月4(火)～7日(金)に北海道東川町で行われた、第21回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2014」に新南陽高等学校が中国ブロック代表（37校中1校）として、本戦（全国521校中18校）に出場しました。県勢としては2010年と2011年の下松高等学校以来3年ぶりです。本戦出場校を決める中国ブロック予選の決勝9校の中に、下松高等学校・南陽工業高等学校・光丘高等学校・新南陽高等学校のブロック最多の4校が残り、山口県の写真レベルの向上を感じさせました。

第36回 山口県高等学校総合文化祭 写真部門受賞者一覧

優 秀 賞（全国高等学校総合文化祭出品候補）

学 校 名	氏 名	学年	題 名
下 松 高 等 学 校	森 弘 麻 友	2	ユレル
	北 村 茉 子	2	夏色 J K
新 南 陽 高 等 学 校	重 永 菜 摘	2	待ちきれない
	豊 永 茜	2	頂上(てっぺん)を見つめて
宇 部 工 業 高 等 学 校	福 井 良 輔	2	明日への不安

優 秀 賞

学 校 名	氏 名	学年	題 名
岩 国 工 業 高 等 学 校	岩 田 拓 己	2	雪花爛漫のローカル線
下 松 高 等 学 校	中 尾 遥 香	2	ジャンプショー
	河 野 明 音	2	風の行く先
	藤 本 裕 美	2	ふたり旅
	竹之内 春 花	1	独りあそび
新 南 陽 高 等 学 校	寺 尾 優 花	2	休日のひととき
	原 村 涼 加	1	帰り道
南 陽 工 業 高 等 学 校	三 牧 幸 成	3	さあ～仕事始めるか！
	杉 山 萌 花	1	闇の中に
山 口 高 等 学 校	福 田 聖 馬	2	青空の爆煙

各部門の報告

日本音楽部門

理事長 吉原達也

(下関短期大学付属高等学校教諭)

1. 平成26年度日本音楽部門の活動報告

今年度の日本音楽部門の活動は6月12日(木)の総合開会式での下関短期大学付属高等学校箏曲部の慶祝演奏で幕を開け、6月14日(土)に山口市民会館にて山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会が行われました。山口県の日本音楽部門は箏曲、三味線、和太鼓、郷土芸能と多彩な内容です。優雅さと激しさ、繊細さと大胆さをあわせ持つ日本の伝統文化の奥深さを感じる発表大会で、参加生徒は他ジャンルの演奏に刺激を受ける一日となりました。

また、全国高等学校総合文化祭は7月30日(水)～31日(木)に茨城県牛久市の牛久市中央生涯学習センターで行われました。県の代表として野田学園高等学校箏曲部が参加しましたが、柔らかく穏やかな山口県らしい演奏で、会場には優しい空気が流れました。来年度の滋賀大会には田布施農工高等学校が参加する予定で、すでに練習を重ねています。

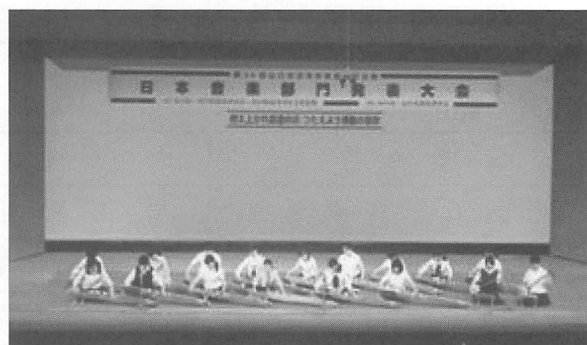


が心配されましたが、幸いにも天候に恵まれ、終日にわたり、会場は西の京山口にふさわしい雅な和の調べで満たされました。

今年度は昨年度から2校減の16校の参加となりましたが、過去2年を上回る167名の生徒が参加して、平素の練習の成果を熱心に発表しました。琴、十七絃、太鼓、三味線といった多様な楽器やバラエティに富んだ演奏形態による多彩な演目が披露され、日本音楽の奥深さを感じさせてくれました。午前の部を締めくくる合同演奏では、9校17名の生徒が古典の名曲「六段の調べ」に挑戦し、心をひとつに合わせて演奏しました。

閉会式では山口短期大学講師の山崎凱千先生にご講評をいただき、参加生徒たちは課題に向けて研鑽を積むべく決意を新たにしましたと思います。

来年度は田布施農工高等学校の主管により、柳井市において開催される予定です。この発表



2. 平成26年度山口県高等学校総合文化祭を終えて

野田学園高等学校（主管校）

教諭 八幡フミエ

第36回山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門発表大会が、平成26年6月14日(土)、山口市の山口市民会館で開催されました。梅雨の最中雨



大会を目標として練習を重ねている学校も多いことと思います。今年度以上の充実した大会になりますよう期待しています。

多くの方々のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

3. 第38回全国高等学校総合文化祭（茨城大会）日本音楽部門に参加して

野田学園高等学校

箏曲部部长 2年 田中 沙季

全国高総文祭への出場が決まった時、私たちは、これまで箏曲部を築いてきた先輩方や、出場できない後輩たちの想いを背負って演奏しようという心を決めました。演奏した「夢の輪」という曲は、今まで私たちが演奏したことのないほど難易度の高い曲で、本当に弾けるのだろうか、と不安になりました。練習を進めていく中で、リズムを上手くつかめなかったり、出すべき音を正確に出すのに苦労したりしました。しかし、合奏を重ねていくうちに、徐々に自分の音が出せるようになり、各パートが一つになって演奏できるようになりました。

茨城県牛久市で行われた全国高総文祭に参加して、各代表校のレベルの高さに衝撃を受けました。初めての大会でとても緊張しましたが、一人ひとり気持ちをこめて演奏できたと思います。

今回、このような貴重な機会を与えていただいたことに心から感謝しています。この経験は部員全体の向上心を高めてくれるものでした。今後ともさらなる上達のために努力していきます。



各部門の報告

囲碁部門

理事長 河 口 明 史
(徳山商工高等学校教諭)

<平成26年度の主な活動報告>

1 囲碁研修大会

期日：7月13日(日)

場所：徳山商工高等学校

指導：日本棋院プロ棋士 山本賢太郎五段



(研修大会・プロ対局風景)

2 第38回全国高等学校総合文化祭囲碁部門

期日：7月30日(水)・31日(木)

場所：茨城県水戸市「茨城県武道館」

第38回全国高等学校総合文化祭囲碁部門は、7月30日(水)・31日(木)に茨城県水戸市で開催されました。水戸市県武道館を会場に、2日間6局の対戦で、互いの棋力を競い合いました。

大会は、団体戦(男女混成で3名の各県代表チーム)と男女個人戦(各1名の各県代表)で行われます。山口県チームは、前年10月の県総文祭の上位入賞者が代表となって出場しました。対戦は、団体戦・個人戦ともに、勝者同士敗者同士を対戦させてゆき、2日間で6局の各対戦相手の勝敗も加味して順位を決めるスイス方式で行われます。参加した代表生徒はそれぞれに頑張り、また全国の高校生との交流を楽しんだようです。実力はかなり上がっており、成績も期待できましたが、今一步よい結果とはいきませんでした。しかし高校入学時より有段者が多数おり、1・2年生も多く全国大会に出場して

おり、次年度に繋がるよい結果ともいえる年度でした。

出場者と成績：

〈団体戦〉

大川 夢月(下関中等)・矢田 裕誠(徳山)・三美 晶子(下関西) 3勝3敗20位

〈個人戦〉

男子 西村祐一郎(防府) 3勝3敗26位

女子 青木 菜那(防府商工) 2勝4敗37位



(全国総文・対局風景)

3 第36回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門

期日：10月26日(日)

場所：徳山商工高等学校

第36回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第26回大会は、10月26日(日)に徳山商工高校で開催しました。参加校は8校で、29名の生徒が参加しました。昨年度に比べ参加校、参加者とも減少しましたが、互いの棋力を競い合うとともに、囲碁を楽しみました。この大会は、全国大会代表と中国大会代表を決める代表決定戦と段級位認定戦とに分かれて行います。代表決定戦には男子10名、女子7名、段級位認定戦には12名の生徒が参加しました。段級位認定戦には3年生の参加も認めており、高校最後の大会で目指す段級位を得ようと例年何人かの3年生が参加しています。生徒にとっては自分の段級位を認定してもらうことが大きな励みになっています。代表決定戦も段級位認定戦も、スイス方式で4回戦の対局で行います。大会結果(下記のとおり)

代表決定戦の上位男子3名と女子2名は、平成27年7月30日、31日に滋賀県長浜市で開催される第39回全国高等学校総合文化祭に出場することになります。全国大会では、男女混成3名で山口県チームを組む団体戦と男女各1名の個人戦に出場します。

また、今年鳥取県倉吉市で開催される第18回中国高等学校囲碁選手権大会には、男子団体戦に徳山高校、女子団体戦に山口高校、男子個人戦には、団体戦出場者を除く県内予選の男子上位6位までの選手、女子個人戦には、上位3名が出場しました。12月に実施された中国大会では団体戦においては男女とも第1位、個人戦男子も第1位で、3月に実施される全国大会の出場権を獲得という素晴らしい成果を上げました。

大会結果

男子団体	優勝	山口県立徳山高等学校
女子団体	優勝	山口県立山口高等学校
男子個人	優勝	田中 裕天(徳山)
	2位	矢田 裕誠(徳山)
	3位	西村僚太郎(防府)
女子個人	優勝	岡村菜々子(山口)
	2位	宮本 若菜(山口)



(県総文・対局風景)

4 第18回中国高等学校囲碁選手権大会

期日：12月20日(土)・21日(日)

場所：鳥取県倉吉市

「倉吉体育文化会館 2階研修室」

出場者と成績：

〈団体戦〉

男子 徳山高等学校 4勝0敗1位

(第9回全国高校囲碁選抜大会出場)

女子 山口高等学校 4勝0敗1位

(第9回全国高校囲碁選抜大会出場)

〈個人戦〉

男子 西村僚太郎(防府) 5勝0敗1位

(第9回全国高校囲碁選抜大会出場)

池田 篤弥(宇部) 3勝2敗10位

杉山慎太郎(山口) 2勝3敗16位

小川 大樹(下関西) 2勝3敗18位

川端 樹(下関西) 2勝3敗20位

岡田 英士(下関西) 1勝4敗26位

女子 吉田 朋世(防府商工) 2勝3敗8位

山田 愛(山口) 2勝3敗11位

筆塚 愛弓(下関西) 1勝4敗13位

各部門の報告

演劇部門

理事長 新 竹 伸 芳
(宇部高等学校教諭)

1 演劇部門活動報告

(1) 地区大会 (県内 4 地区)

- ① 8月7日(木)～8日(金) 下関地区
8校上演 下関市生涯学習プラザ
- ② 8月9日(土) 山防地区
7校上演 山口南総合センター
- ③ 8月12日(火) 周防地区
5校上演 周南市市民館
- ④ 8月23日(土) 宇部地区
5校上演 宇部市文化会館

地区大会は、例年通り8月に県内4地区で行われ、今年度も無事、県下25校の演劇部すべが上演できました。その結果、各地区の最優秀校、計10校が県大会への出場権を得ました。

(2) 演劇講習会

(宇部フロンティア大学附属香川高等学校)

9月14日

今年の演劇講習会は、9月14日(日)に宇部フロンティア大学附属香川高等学校の体育館大阪を活動拠点とする劇団「ステージタイガー」の虎本剛さん、谷屋俊輔さん、ネコ・ザ・メタさんの3人を講師にお迎えして、生徒140名、顧問23名の計163名の参加で行われました。

午前中はウォーミングアップの後、柔軟体操やストレッチ、筋トレなどで汗を流し、午後は入念に発声練習を行った後、即興劇を用いた演技レッスンを受けました。その中で、相手を否定せず相手のいい所を受け入れることや、きちんと感じて、イメージを作り、伝えることが重要だということを学びました。限られた時間の中でかなりハードな内容でしたが、非常に得るものの多い講会でした。

(3) 第36回山口県高等学校総合文化祭演劇部門 (防府市公会堂)

10月25～26日

10校が上演し、下関西・光丘の2校が最優秀賞を受賞して、ともに初の中国大会出場を果たしました。創作脚本賞は下関中等教育学校の高田千弘さんが受賞しました。

また、優秀生徒講評委員に新南陽高校の藤原美華さんと下関南高校の中川あぐりさんが選ばれ中国大会の生徒講評委員を務めることになりました。

(4) 第52回中国地区高等学校演劇発表会

(島根県民会館)

12月20～21日

中国各県代表の計11校が上演し、山口県からは、下関西、光丘の2校が出場しました。両校ともに観客を魅了する熱演を繰り広げ、残念ながら全国大会出場にはあと一步届きませんでした。光丘が第2位にあたる優秀賞に選ばれました。その結果、3月20日(金)～22日(日)に香川県高松市で開かれる、第9回春季全国高等学校演劇研究大会に出場することになりました。

また、県代表生徒講評委員として参加した新南陽高校の藤原美華さんと下関南高校の中川あぐりさんも他県の講評委員に負けず、独自の視点からとらえた鋭い意見を述べ、活躍していました。

(5) 各地区の活動

- ① 1月31日(土)
第20回周防地区高校演劇新人大会
(アクティブやない)
- ② 2月8日(日)
宇部地区高等学校演劇講習会
(ヒストリア宇部)
- ③ 3月23日(月)
第22回下関地区演劇連盟合同公演
(下関市民会館)

2 第36回山口県高等学校総合文化祭演劇部門の記録

今年の県大会は、10月25日(土)・26日(日)に、防府市公会堂で、例年より1校多い計10校の上演で行われました。出場校が増えるのは、活動の活性化という点から見ればよいことですが、日程・経費等、大会運営の面ではご苦勞も多かったと思います。しかし、主管校の西京高校の山崎・市川両先生のご尽力と、顧問・生徒役員のおかげで、無事終了することができました。

また、上演校数だけでなく、上演内容も非常に濃く、質・量ともに充実した大会であったように思います。特に出場10校中、7校が創作脚本であったのは注目すべきことです。講師の篠崎光正先生もそのことを高く評価してくださると

ともに、観客をつかむために早めにドラマに入ること、すべてをセリフにして説明するのではなく、逆に気持ちを隠すことによって、見ている観客の心中に感情が生み出されるようにすること、などの貴重なアドバイスをくださいました。これを生かして、今後もさらに中身の濃い、多くの創作作品が生み出されることを願ってやみません。

また、県大会での生徒講評委員会の活動も3年目に入り、さらに充実してきた感があります。地区代表計8名の生徒講評委員は、担当の先生方のご指導もあり、非常に活発な講評活動を行っていました。作品を多角的に見て、積極的に意見を述べ合い、簡潔にまとめて発表してくれました。

第36回山口県高等学校総合文化祭（演劇部門）・第33回山口県高等学校演劇大会上演一覧（上演順）

防府商工高等学校	◇星あい	松本 明／作
下関中等教育学校	◇ホテルと夏影	○高田 千弘／作、下関中等教育学校演劇部 潤色
◎光丘高等学校	◇びっくり丘は大騒ぎ	緋岡 篝／作
宇部高等学校	◇Re：らいふ	林田 侑里香／原案、宇部高校演劇部／作
下関商業高等学校	◇DOOR	エムエムジュニア／作
山口県鴻城高等学校	◇台風一家	渚 太陽／作
サビエル高等学校	あの、大鴉・さ・え・も	竹内 銃一郎／作、サビエル高校演劇部／潤色
華陵高等学校	◇つるつる	無頼花／作
◎下関西高等学校	もうひとつの《罪と罰》	ドストエフスキー原作、大和屋かほる／翻案・構成・脚色
山口中央高等学校	地底人	大庭 久幸／作

◎は最優秀校

◇は創作

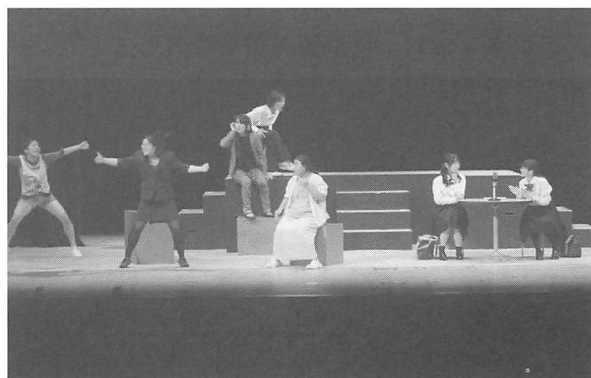
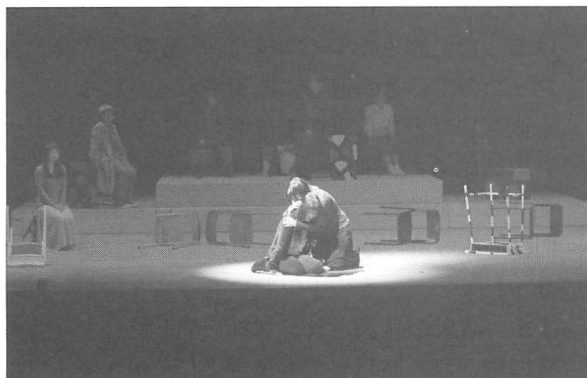
○は創作脚本賞

講師・審査員

篠崎 光正（演出家、日本演出者協会理事、電劇主宰、SHINOZAKI—STUDIO代表）

柳沢 悟（演出家、俳優、劇団演劇街代表）

近藤 真美（山口県立宇部中央高等学校演劇部顧問）



各部門の報告

放送部門

理事長 石田 千晶
(光丘高等学校教諭)

1 第38回全国高等学校総合文化祭（いばらき総文2014）は、7月30、31日、日立シビックセンターで行われました。全国各地のユニークな番組や、県ゆかりの著者の作品の朗読、故郷自慢のアナウンスはどれも感動的で、もっとメディアなどを通じて一般の方々に観ていただくチャンスはないものかと強く感じました。

出場者・出場校は以下のとおりです。

朗読部門

徳山高校 松原 彩香
『さくら地蔵』重松 清
山口高校 高原 潮
『卒業ホームラン』重松 清
熊毛南高校 城 歩夢
『カーネーション』重松 清

アナウンス部門

華陵高校 吉岡 采『星ふるまちくだまつ』
下松高校 尾崎友里花『八代のナベヅル』
徳山高校 小方 祐輝
『エレクトーンと歌う、歓喜の歌』

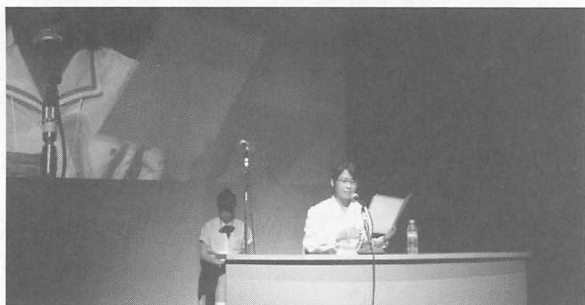
オーディオピクチャー部門

熊毛南高校『未来へのオブジェ』

ビデオメッセージ部門

岩国高校 『大島からALOHA』
山口高校 『街に芸術』

今年度は、華陵高校の吉岡さんが心揺さぶるアナウンスで、見事優秀賞を受賞しました。



いばらき総文を振り返って感じたこと

山口県立華陵高等学校 3年 吉岡 采

私は、山口県代表として全国レベルの大会に出場したのは、初めての経験だったので、とても緊張しました。放送アナウンス部門は、郷土の話題を全国の高校生に伝える自作原稿を1分30秒でアナウンスするという内容です。

この大会に向けて、私は2つのことを目標に取り組んできました。1つ目は、他の人に言葉をきちんと伝えるための発声練習です。高校1年生の時からずっと、発声の基礎練習を重点的に続けてきました。大会本番は大変な緊張感の中、1分30秒という短い時間で原稿を読み、勝負しなければいけません。どんな状況でも自信を持ってアナウンスするためには、自分の原稿を伝えようとする強い意志と、アナウンスの土台となる発声がどうしても必要です。

2つ目は、原稿作りです。郷土の話題という内容だったので、顧問の先生と相談して、「星ふるまちくだまつ」を全国の高校生に紹介することにしました。「下松」の地名の由来。星が下ったといわれている伝説の松。星の形をした「星に願いを」というもなか。そして、星の形をデザインした華陵高校のスクールマークも紹介しました。デジタル画像を併用することができたので、「下松」という文字、スクールマーク等すべて映像にして、視覚にも訴え、インパクトのある内容にしようと工夫しました。

前日の練習、大会当日ともに、控室では、全国の高校生が真剣に練習していて大きな刺激を受けました。誰もがレベルの高い発声と原稿内容だったので、その迫力に圧倒されそうになり、本番直前にはとても緊張しました。しかし、アナウンスを始めた瞬間から集中でき、本番では練習通り原稿を読むことができました。アナウンス部門は、あらかじめ全国の都道府県が8ブロックに分かれていて、その中で競い合うことになっています。結果が発表され、ブロック1位つまり優秀賞に選ばれた時はとても驚きましたが、今までの

努力がすべて報われた瞬間でした。

2 第36回山口県高等学校総合文化祭第21回放送部大会は11月8日、山口市のニューメディアプラザで行いました。参加人数は、朗読部門36人（昨年比+10）、アナウンス部門33人（+11）、オーディオピクチャー部門2校（+1）、ビデオメッセージ部門5校（+1）の賑やかな大会となりました。

今年度は、アナウンス・朗読部門は、民放3局のアナウンサーに加え、研修会の指導者でもある安田知博氏にも審査に加わっていただきました。番組部門は某局の制作お一人ですが、どの作品も完成度が高く審査が難航したとおっしゃっていました。

閉会後に、審査員の皆さんが、出場者個人個人に指導してくださり、貴重な学びの場となりました。

朗読部門

最優秀賞	光高校	田部ひかる
		『機関車先生』伊集院静
優 秀 賞	徳山高校	末田 真唯
		『卒業』重松 清
	徳山高校	河村 真奈
		『まゆみのマーチ』重松清
入 賞	下松高校	岡本 桃佳
		『飛水』高樹のぶ子
	山口高校	杉山 優
		『浅草の女』伊集院静
	光高校	村谷 紀明
		『受け月』伊集院静

アナウンス部門

最優秀賞	徳山高校	小方 祐輝
優 秀 賞	山口高校	田中 泰平
	光高校	山下 詩織
入 賞	山口高校	松原 悠希
	徳山高校	松原 彩香
	下関西高校	山本 幸一

オーディオピクチャー部門

最優秀賞 光高校 『刀身に己を映して』

ビデオメッセージ部門

最優秀賞 岩国高校 『守り神蛇』

優 秀 賞 熊毛南高校

『100歳のスイマーからのメッセージ』

2度目の総文出場に向けて

山口県立徳山高等学校 2年 小方 祐輝

僕は今年の茨城総文にアナウンス部門で出場させていただきました。

今年の会場の茨城県日立市までは、新幹線と電車を乗り継いで行きました。大会自体は翌日からだったため、新幹線の中あまり緊張しませんでした。初日は、到着後もあまり練習はしませんでした。楽しむことは大事だけど、初日からもう少し練習しておけば緊張が和らいだかな、と思いました。翌日から大会が始まり、1日目は朗読部門と、番組部門の一部分でした。2日目はアナウンス部門と、番組部門の続きでした。僕の出番は午後からだったので、しっかり準備することができました。しかし、直前になるとやはり緊張してしまい、練習会場では既に手が震えていました。そして、本番では噛んでしまい、緊張は最大の敵だな、と改めて感じました。また、そのあとに受けたインタビューでは、山口県代表として、山口県をアピールすることができたかなと思います。結果は入賞を逃してしまいましたが、自分の課題が見えたという部分は良かったと思います。

僕は、来年の全国総文滋賀大会にも参加します。来年の滋賀総文での目標は、入賞することです。県内だけでなく、他の都道府県の人たちに勝つのはなかなか難しいことです。それでも、2年連続全国総文出場者として、来年こそは、入賞を狙って挑みたいと思います。また来年の全国総文は、高校生活最後の全国大会の舞台となるので、今からしっかり自分の読みを追求して、本番で自分の納得できる読みをしたいです。



3 アナウンス・朗読研修会は、第1回は6月14日にNHK杯と総文の2つの全国大会のための指導、第2回は9月21日に全国大会報告と良いアナウンスのポイントと相互指導法。第3回は3月29日にプレ大会と相互審査を徳山高校で行いました。

各部門の報告

将棋部門

理事長 岡 茂 樹
(下松高等学校教諭)

「お願いします。」「負けました。」「ありがとうございました。」「と、礼に始まり礼に終わる。作戦を立て、自分の頭で考えて駒を動かす。不利になっても最後まで諦めないで、逆転を模索して頑張る。将棋を指すことで、脳が疲れるような達成感、弱点のある自分を受け入れる、一生の趣味…と友人。高校生活の充実にささやかであっても寄与できたら、しあわせです。

1. 第36回山口県高校総合文化祭将棋部門

平成26年 5月24日(土)・25日(日)

防府市文化福祉会館

男子団体 参加5校9チーム

第1位 防府高校A

(窪 健太・松永 平賢・宮崎 真洋)

第2位 下関西高校A

(久保中亮翔・中村 知堯・磯部 航)

第3位 防府高校B

(中尾 蓮・宮川 友宏・白石 昂大)

下関西高校B

(藤田 真也・増田 真吾・安永 悠紀)

女子団体 参加2校4チーム

第1位 徳山高校A

(関岡 奈々・河村 莉奈・細瀬 摩利)

第2位 下松高校A

(佐世奈緒子・中村 咲絵・高村 麻衣)

男子個人 参加10校34名

第1位 中堀 卓哉(宇部鴻城2)

第2位 久保中亮翔(下関西2)

第3位 中尾 蓮(防府3)

萩田 将宏(宇部鴻城3)

敢闘賞 米田 翔二(宇部高専1)

横道 大雅(防府1)



女子個人 参加2校12名

第1位 佐世奈緒子(下松3)

第2位 高村 麻衣(下松2)

第3位 松山 結芽(徳山1)



2. 第38回全国高校総合文化祭将棋部門

平成26年 7月27日(日)・28日(月)

茨城県武道館

男子団体 防府高校

(窪 健太・松永 平賢・宮崎 真洋)

予選リーグ2勝2敗

女子団体 徳山高校

(関岡 奈々・河村 莉奈・細瀬 摩利)



予選リーグ3勝1敗 7位で通過

決勝トーナメント1回戦敗退

男子個人

中堀 卓哉(宇部鴻城2) 予選リーグ2勝2敗

久保中亮翔(下関西2) 予選リーグ0勝4敗



女子個人

佐世奈緒子(下松3) 予選リーグ2勝2敗

高村 麻衣(下松2) 予選リーグ1勝3敗



3. 山口県高文連将棋専門部研修会

(第19回山口県高等学校将棋新人大会)

平成26年11月2日(日)

防府市文化福祉会館

男子個人 参加11校31名

第1位 中堀 卓哉(宇部鴻城2)

第2位 宮崎 真洋(防府2)

第3位 久保中亮翔(下関西2)

磯部 航(下関西2)

第5位 中本 晴樹(桜ヶ丘2)

藤井 雄二(聖光1)

女子個人 参加2校9名

第1位 関岡 奈々(徳山2)

第2位 河村 莉奈(徳山2)

第3位 高村 麻衣(下松2)

寺本 弥生(下松1)

敢闘賞 岡祐 一郎(下関南2)

安永 悠紀(下関西1)

研修会(指導対局、大盤解説)

指導 北村 公一 日本将棋連盟山口支部長

田中 佳久 山口県名人



4. 第13回中国地区高校将棋選手権大会

平成26年12月13日(土)・14日(日)

島根県松江市 松江テルサ

男子個人 参加32名

中堀 卓哉(宇部鴻城2) 2勝3敗

宮崎 真洋(防府2) 2勝3敗

中本 晴樹(桜ヶ丘2) 2勝3敗

藤井 雄二(聖光1) 2勝3敗

中村 知亮(下関西1) 2勝3敗

宮川 友宏(防府2) 1勝4敗

女子個人 参加14名

関岡 奈々(徳山2) 3勝2敗

河村 莉奈(徳山2) 3勝2敗

高村 麻衣(下松2) 2勝3敗

5. 第22回全国高文連将棋新人大会

平成26年1月30日(木)～2月1日(土)

北海道函館市 花びしホテル

男子個人

松永 平賢(防府2) 予選リーグ2勝2敗

中堀 卓哉(宇部鴻城1) 予選リーグ2勝2敗

女子個人

佐世奈緒子(下松2) 予選リーグ1勝4敗

関岡 奈々(徳山1) 予選リーグ3勝2敗

各部門の報告

文芸部門

理事長 桑 原 範 恵
(徳山高等学校教諭)

今年度の文芸部門の活動状況を報告します。

1 県総文祭総合開会式慶祝展示

全国高等学校文化祭長崎大会のパネル写真を展示しました。また、全国総文祭茨城大会山口県代表の徳山高校文芸誌『耿光』、県内各高校の文芸誌、および全国総文祭茨城大会参加作品を展示しました。

2 第17回「俳句甲子園」地方大会（防府大会）

6月14日(土)種田山頭火ゆかりの防府市立松崎小学校で開催されました。山口県大会は初開催でしたが、徳山高校が優勝し、全国大会に進みました。



3 第17回「俳句甲子園」全国大会（松山市）

8月23日・24日

徳山高校は予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進出。敗者復活3位と大健闘しました。

4 全国高等学校総合文化祭

7月27日(日)～31日(木)の5日間、茨城県東海村文化センターを中心会場として、全国総文祭文芸部門大会が開催されました。山口県代表とし



て、下松高校1名、高森高校1名、徳山高校3名の計5名が参加し、他県の生徒と共に活発な創作活動を行いました。

5 第12回山口県高等学校文芸コンクール

今年度の県コンクールは14校112名138作品の応募があり、この中から選出された各部門の最優秀、最優秀学校が、来年度の全国総合文化祭への出場を決めました。

○散文部門 最優秀 山口県立防府高等学校
1年 児玉 穂香『手紙』

○詩部門 最優秀 山口県立西京高等学校
2年 柳 光一『ハル』

○短歌部門 最優秀 山口県立徳山高等学校
2年 高野 光裕『久々に』

○俳句部門 最優秀 山口県立徳山高等学校
2年 野名 美咲『かっぱ巻き』

○最優秀学校賞 徳山高校

6 第16回高校生文芸道場中国ブロック大会（広島大会）

11月22日(土)

広島県福山市：まなびの館ローズコム

山口県コンクールで優秀な成績を収めた者、中国ブロック大会で入賞した者を中心に、西京高校、下松高校、徳山高校、防府西高校、下関商業高校、萩高校、山口高校の生徒が参加し、各部門での演習により、互いに切磋琢磨する充実した大会となりました。



○散文部門

優秀 山口県立下松高等学校 2年
谷口 恵理『見えざる手』

○詩部門

優秀 山口県立徳山高等学校 2年
野名 美咲『白』

佳作 山口県立山口高等学校 3年
堂面雄太郎『言葉の森より』

佳作 山口県立萩高等学校 1年
田原 たみ『レイン』

佳作 山口県立萩高等学校 2年
伊勢谷奈美『夢現』

○俳句部門

佳作 山口県立山口高等学校 1年
杉 のどか『ひまはりの』

○文芸部誌部門

佳作 山口県立山口高等学校『無蓋車』

7 文芸研修会

1月31日(土)防府市福祉会館 「俳句甲子園」

OB OG等派遣事業によるワークショップ。

全国高等学校総合文化祭文芸部門参加報告(抜粋)

山口県立下松高等学校3年 神田 海央
(散文部門)

・7月29日(火) 文学散歩

県北コースにて、「赤い靴」、「しゃぼん玉」などの童謡で有名な野口雨情の生家、資料館、そして天心記念五浦美術館を訪れました。生家では、野口雨情の孫にあたる野口不二子さんのお話をお聞きすることができました。東日本大震災の日、野口雨情氏が残した原稿を後世に残すため守りきったお話は特に印象的でした。資料館でも、東日本大震災の写真を見ることで、あの震災は「過去」のものではなく、「現在」も続いていることを再確認しました。

・7月30日(水) 全体交流会・部門別交流会

秋田県、静岡県、神奈川県、宮崎県の高校生との班になりました。休憩をはさみ、リレー小説を書くことになりました。

山口県立徳山高等学校2年 中山 由菜
(詩部門)

詩部門に参加しました。そこで他校の詩を見て、レベルの差を感じました。講師の方からも厳しい指摘をいただきました。分科会が終わって初めて私は世界が全く違う、と思いました。総合文化祭

参加一日目にして、ショックを受け、また、初めて別の世界に触れた時の新鮮さを感じたのでした。

山口県立高森高等学校2年 廣瀬 和美
(短歌部門)

総合文化祭に行ってもまず驚いたのは、国体のように地元の文芸部の生徒さんたちが受付などをしていたことです。よく見ると、次に開催地となる滋賀県の生徒さんたちやその次に開催地になる広島県の生徒さんたちも勉強に来ていたので、これは大切な会なのだと改めて思いました。交流会はとても勉強になりました。これと同じくらい収穫だったのは、同学年で短歌に興味のある人がこんなにもいるんだ、という事です。どの参加者も自分では考え付かないような歌や批評をしていました。さすが、レベルが高いと思いました。

山口県立徳山高等学校3年 浴井 菜
(俳句部門)

全体交流会では短歌、連歌、前句づけについて学び、他の都道府県の人たちと、短歌の五七五七七の五七五を考える前句づけなどをして楽しく交流した。また茨城県ゆかりの詩人、野口雨情についても学んだ。徳山高校の運動会で男子が踊る、「證誠寺の狸囃子」も野口雨情によって作詞されたもので、とても身近に感じた。2日目は俳句の分科会に参加した。各班に一句ずつ、既存の有名な句が配られ、その歌に詠まれた情景を絵で表現し、他の班の人たちにお題の句を当ててもらおうというゲームをした。今回いばらき総文に参加し、自分とは違う考え方の人たちと話すことができたが、どなたとのお話も新鮮で、とても有意義な時間を過ごせた。いばらき総文で学んできたことをこれからの創作活動や生活に生かしていきたいと思う。

山口県立徳山高等学校2年 河村 莉奈
(文芸誌部門)

私は文芸部誌部門に参加しました。全国の文芸部の高校生や、プロの方からの様々なご指摘を受けとてもいい刺激になりました。また、童謡を合唱したり、バックパッカーを経験された方の旅行記を聞いたり、楽しい内容ばかりでした。勉強になる2日間になったと思います。

各部門の報告

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 内 田 良 一
(山口県鴻城高等学校教諭)

平成26年度山口県高等学校文化連盟マーチングバンド・バトントワリング部門の活動状況を報告いたします。

1. 第36回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

平成26年6月12日(木)

テーマ「燃え上がれ創造の炎

つたえよう感動の息吹」



下関市民会館にて開催されました慶祝演奏では、山口県鴻城高等学校吹奏楽部が、マーチング演技を披露されました。曲目は「オリンピックファンファーレ」と「カーン・イービル9」を演奏しました。大変華やかで、スピード感のある演奏演技が行われました。

2. 第36回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

総合開会式の翌日、13日・14日の2日間で開催されました音楽4部門発表会では、慶進高等学校がルパン三世と失われた文明インカ・マヤでバトンの演技、山口県鴻城高等学校がカーン・イービル9をマーチング演技で出演いたしました。大変表情豊かで、素晴らしい演技をしていただきました。



各部門の報告

自然科学部門

理事長 大田 和子
(宇部高等学校教諭)

山口県は今年度の全国高等学校総合文化祭・茨城大会で、高川学園高等学校科学部が村田満先生のご指導のもと、3部門で研究発表を行いました。会場の筑波市は都心から快速で45分という、とても便利のよい都市でした。そこで生徒たちは筑波でしかできない貴重な体験を満喫したようです。特に宇宙飛行士 古川聡さんの特別講演には興奮し、胸躍らせて聴き入ったようです。また、天体観測で土星や火星を見たことや、巡検で国立科学博物館筑波実験植物園を見学したことは、とても良い刺激になり、これからの研究への意欲を一層かきたてたようです。以下に参加した各部門の生徒からの感想を掲載します。

<生物部門>「鉄細菌の化学合成システム」

2年 本田 健成

鉄細菌の研究は、先輩から引き継いだ研究です。昨年までは、鉄イオンから放出される電子の存在を起電力により推定したものでした。僕達は、この電子がカルビン-ベンソン回路につながり、ATPの生産に関わっていると仮説を立てました。しかし、すべてが検証できない状態で本番になり悔やまれました。審査員から「もう少し詳しくまとめた方がいい」、「わかりやすく結論を出してほしい」と言われました。この経験を糧にしたいと思います。

審査後は、宇宙飛行士古川聡さんの特別講演でした。自分は「宇宙ステーションの仕事の中で一番苦労されたことは何か」と聞きました。すると「出発前に、ロシア語を勉強したこと」で予想外の答えをもらいました。インタビュー後には握手をすることもでき、とてもいい体験になりました。

2年 右田 和宏

特別講演では興味深い宇宙の話や宇宙飛行士になるまえの話が感慨深く、とても惹かれるものがありました。その後の生徒交流会では他校の生徒

と交流を深め、多くの思い出ができました。

3日目には、巡検研修があり、私たちは国立科学博物館筑波実験植物園へ行きました。ここは、植物を展示しているだけでなく保護活動などを行っている施設です。いろいろな施設を回り自然の大切さと植物のありがたさを理解できました。今回は、私にとって初めての大きな大会であり、知識と経験を得られてよかったと思っています。

2年 玉田 翔大

僕達は総文にでるのは初めてで、何をしたらいいのかわかりませんでした。他校の発表を聞いたら、つまらないどころか強いアピール力があり、応答にも素早く対応できていることに驚きました。

<地学部門>「河川のアーマーコート現象と土砂土の関係を起す真砂土の関係について」

2年 西川 橋介

アーマーコート現象とは、上流から浮遊してきた微細粒子が、下流の河床に張り付くように堆積する現象です。そのため一次生産者の生産量が減少するため河川生態系が破壊されてしまうと仮説を立て、その原因を探る研究を行ってきました。しかし、全国大会での研究発表は、初めての経験で緊張してしまい声が出ませんでした。他校の学校の発表を聞いてみると、つまずに発表していてアピール力もあり見習うべき点がたくさんありました。質問に対しての応答も、適する答えがうまく表現できなかったことが、後になってとても悔しく思い出されます。

生徒交流会では他県の人達とチームを作り、クイズに挑戦したりスティッキーボムをしました。

今回が初めての全国大会だったので、戸惑うことがたくさんありましたが、次に出場する大会では、これらの経験を生かし表彰されるような発表をしていきたいと思っています。

2年 山本 義仁

発表順は、1日目の1番でした。自分はパソコン操作が担当でしたが、実際に前に出たら一気に緊張して、観客席からの強い視線を感じました。その中でなんとか自分の仕事をまっとうしました。発表が終わったあとは、自分ではやりきったという気持ちになり、すごく大きい達成感を覚えました。しかし、自分達の後の発表を見ると、さらに細かく研究されていて「すごいな」と思いました。

2日目の発表がすべて終わってから、生徒交流会に参加しました。そこでは、研究を発表していた他校の高校生と関係を深めるためにゲームが行われました。初めは緊張してなにも話せませんでしたが、解答順が自分になったことがきっかけとなって相談し正解することができました。それがきっかけとなって、いろいろな人と話しをすることができ、とても楽しい生徒交流会になり、連絡先の交換もしました。今回は初めての大会でしたが、自分たちの発表も無事できてよかったと思っています。そのうえ、生徒どうしで交流が深められて、自分はすごくよい経験ができたと思っています。

2年 原田 英明

他校の発表を見ていると、うまく伝えようとする熱意が伝わってきてきました。また、研究内容もさまざまで、しかも詳しく研究していて、おもしろそうで、興味をひくものがたくさんありました。

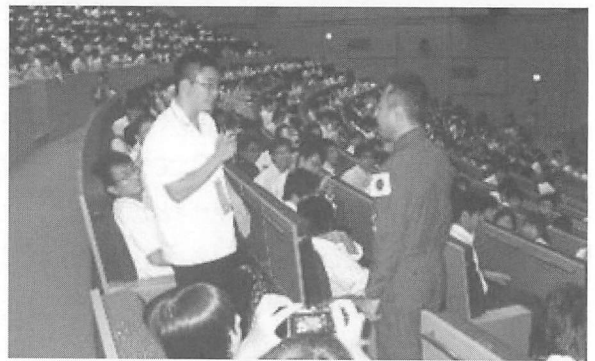
生徒交流会では、発表した他校の生徒と、都道府県当てゲームなどを、チームを組んだ人と協力してやりました。他校生徒と、コミュニケーションをとることができて、とても楽しく過ごすことができました。

<ポスター発表>「山口県のおオサンショウウオ(2)」

2年 赤崎 武

全総文祭では、ポスター発表（生物）に参加しました。研究内容は、昨年の長崎大会の研究発表（生物）で先輩が発表した内容から、本年度7月までの新しいデータを入れ考察を練り直したものです。先行研究が多いため、ポスター制作にも時間がかかり、練習時間が足りませんでした。発表経験は、これまで地方ではありましたが、今回の

ような全国レベルは初めての経験でした。初日に一度目の審査がありましたが発表時間の配分に不備があり、規定時間を越えてしまいました。その後、相互発表で時間調整をし、2日目に備えました。2度目の審査では質問には答えることができたものの目線や自信の面で指摘を受けてしまい、自分の未熟さを再認識しました。今回は僕にとって知識を深め、非常によい経験ができた大会であったと思います。



各部門の報告

小倉百人一首かるた部門

理事長 青 池 のぞみ
(下関南高等学校教諭)

1 部門の活動報告

小倉百人一首かるた部門は、平成25年度に発足してから無事2年目を終えることができました。県高文連会長をはじめとする事務局の先生方、他の専門部の理事の先生方、また百人一首かるたの先進県である他県の先生方に御助言をいただきながら、少しずつですが組織として前進しています。県内には、かるた部のある学校はまだありませんが、かるた競技の選手として活躍する高校生の人口が、近年急増してきました。かるた競技は、「畳の上の格闘技」といわれています。静寂と美しい日本語の調べのなかで自己と向き合う高度な集中力と記憶力、相手に勝る瞬発力、そして常に冷静な判断力、長時間の対戦に絶え得る精神力が求められる厳しい競技です。また美しい振る舞いや相手を敬う人間性も必要です。生徒たちは、各自で公民館などの稽古場を工面し、日々厳しい稽古に取り組んでいます。山口県では、かるた協会と協力しながら選手育成をおこなっています。錬成会や合宿も実施し、各種大会でも好成績を収め、今年度の中国大会では山口県合同チームが準優勝をしました。来年度は、さらに高校生選手人口も増えますので、山口県の予選会を春・秋の年2回開催にする予定です。

かるたに向き合って集中している生徒の顔は、とても熱く輝いています。山口県から、未来の名人・クイーンが育つことを期待してやみません。

2 第36回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会の報告

滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される、かるたの甲子園と呼ばれる名誉ある大会です。今年は7月20日(日)団体戦・21日(月)に個人戦が開催され、山口県立小野田高等学校が出場しました。

団体戦 初戦敗退

個人戦 C級準優勝 3年 佐藤 絵理
D級準優勝 2年 楳野 百佳

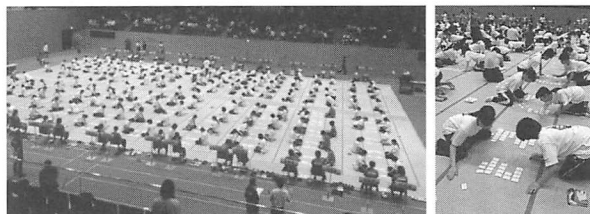
3 第38回全国高等学校総合文化祭（茨城大会）小倉百人一首かるた部門の報告

7月29日(火)～31日(木)の3日間、茨城県つくば市のつくばカピオにおいて開催されました。山口県は4校合同8名での出場となりました。

団体戦 山口県合同チーム

予選リーグ 1勝2敗

山口県立小野田高等学校（3年川上琴子・3年佐藤絵理・2年森本蒼・2年森本茜・2年楳野百佳）、下関商業高等学校（3年橋本拓海）、山口県立下関西高等学校（2年森脇史織）、山口県立山口南総合支援学校（2年岡田あやの）



4 第17回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会の報告

10月25日(土)～26日(日)に、鳥取県大山町で開催されました。

団体戦 山口県合同チーム 準優勝

山口県立小野田高等学校 初戦敗退



全国高等学校総合文化祭に参加して

大津緑洋高等学校3年

大嶧 正隆

「全国高校総合文化祭ってどういうことをするのだろう？」総合開会式の県代表に選ばれたことを知ったとき、少し不安を感じましたが、二度とないチャンスだと思い参加することを決めました。

まず、総合プログラムや開会式の入場の際に表示される「ふるさとのお国自慢」を考えることになりました。いつも当たり前のように感じていた山口県のことをどのように全国に紹介しようか悩みました。山口県は、角島や秋吉台など自然も豊かで、錦帯橋や萩城下町のようによき文化遺産もあります。また、童謡詩人の金子みすゞさんやゆるキャラのちよるも有名です。そんな魅力の多い西の京やまぐちを知ってほしいと思い、写真やイラストを組み合わせることにしました。

知っちゃう!?やまぐち



そして、7月の終わりに全国高校総合文化祭が開催される茨城に向けて出発しました。茨城の街並みはとてもきれいで、特に総合開会式が行われるつくば市は自然が豊かであるとともに、筑波研究学園都市として知られ、魅力の多い場所でした。

会場のつくばカピオに着くと、そこは全国あるいは海外からの多くの高校生で溢れていました。かなりの緊張を感じながらも、開会式に臨みました。本番前に隣の席の人と総合文化祭や地元のことについて話しているうちに、少し緊張もほぐれ、本番では県代表として、この経験を生かして次年

度の山口県高校総合文化祭総合開会式を感動溢れるものとしたとの決意を表明しました。

第1部「式典」では、生徒実行委員会委員長、須能理恵さんの大会への思いのこもったあいさつや大会イメージソングの合唱が行われました。そして、第2部「交流」では、次年度開催の滋賀県と茨城県の交流ステージの後、タイ王国の伝統舞踊や英国の模擬国連会議の紹介、大韓民国の太鼓踊り（ブクチュム）などが行われ、伝統や歴史、文化をグローバルに感じることができました。第3部「開催県発表」では、構成劇「未来への扉～希望、勇気、そして責任～」と題する、戦時中の予科練生と現代の高校生が思想や価値観を巡って対立しながらも、交流を通して平和の尊さを分かちあうという劇を鑑賞し、今を生きる自分たちがどうあるべきかを考えさせられました。

この総合開会式に参加して、文化活動に取り組んでいる高校生がひとつになり、交流を通じて新たな文化が生まれたと感じました。素晴らしい時間や感動を共有することができ、自分自身にとってもこの上ない経験を積むことができました。

今振り返ってみても、あの日の開会式の様子が鮮明に思い起こされます。それほど、芸術、文化が人に与える力や感動は壮大であるのではないのでしょうか。この貴重な経験を生かし、自分の未来に向かって、精進していきたいと思います。



自主事業・補助事業の報告

《自主事業》【山口県交響楽団演奏会】

豊浦総合支援学校

僕は、山口県交響楽団に感動してしまいました。
まず、僕らが知っている曲を選んでくださり、誠にありがとうございました。みなさんの優しい心遣いに感動しています。

次に、皆様の演奏の質が違うことです。きっと血がにじむような練習をなさって、この本番に臨まれたことと思います。

最後に、楽団の皆様と児童生徒全員で、手を結び合い、一つの音楽ができたことです。会場全体が一つになった時、僕は何かが砕けた気がしました。演奏を聴いて、心の中まで楽しくなれました。

これらも素敵な音色で、この世界に誇りの持てる楽団になってください。

山口県交響楽団の皆様、お体に気をつけられて、これからも頑張ってください。

オーケストラははじめてききました。カルメンの曲がすごかったです。とても迫力がありました。

みんなで『ビリーブ』を歌いました。気持ちがよかったので、ぼくは大きな声で歌いました。終わったあとで「指揮をしたかったな。」と思いました。またききたいです。

山口県交響楽団の皆様が素晴らしい演奏をしていただき、すごいと思いました。生で聴くと迫力があって体に響きました。

皆様と一緒に歌も歌えてうれしかったです。

本校に来てくださり、本当にありがとうございました。



《自主事業》【リコーダーとともに】

下関短期大学附属高等学校

リコーダーとリュートの演奏は心に響いてとても落ち着いた気持ちになりました。

また、リコーダーの演奏を交えた楽器の紹介で、あんなにたくさんの種類のリコーダーがあり昔から使われている歴史のある楽器であることに驚きました。リコーダーは今まで学校の音楽の授業でも少し経験のある楽器でしたが、やさしい音色、軽快な音色など初めて聴く音色がありリュートの伴奏で奏でる演奏は味わたったことのない雰囲気に聴き入ってしまいました。素晴らしく楽しく落ち着いた演奏ありがとうございました。

私はリュートの伴奏で奏でるリコーダーの演奏を聴いていると素朴な田舎の田園風景や外国の丘

陵を思い浮かべました。温かみのある落ち着いた感じの曲やリズム感のある素朴でありながら躍動感のある曲など同じ楽器でも違った雰囲気がとても感動的でした。今までリコーダーやリュートの演奏を聴いたことがなかったので貴重な経験ができたと感じました。

ありがとうございました。



『となりの国の打楽器と踊り』を見て、とても迫力のある音楽にびっくりしました。一番印象に残ったのは「ヨルトバル」です。大蛇みたいに動く紙のテープがとても美しかったです。また、日本に来てほしいと思いました。

すごい踊りでした。「サンモの踊り」がすごかったです。「ヨルトバル」をしてみたくまりました。ありがとうございました。

韓国の踊りを見たのは初めてで、見る前はどんなものかとても楽しみでした。実際に踊りを見ると、とても迫力があり、楽しかったです。踊りは



1つだけでなく、いろいろな踊りがありました。打楽器も初めて見て、こんな音がするんだと思いました。踊りながら太鼓を演奏するのは難しかったです。僕は、「サンモの踊り」が一番気に入りました。

一番驚いたことは、李さんが日本語をとて上手に話されていたことです。普段は異国の文化に触れる機会がないので、今日の公演で韓国の打楽器や踊りを知ることができてとてもよかったと思います。

これからもお身体に気を付けて、活動を頑張ってください。

今回のような本格的な劇を見たことがなかったので、その力強さや表現力に圧倒されました。そんな素晴らしい劇なのに演じているのはたったの4人。たった4人で物語の世界観や登場人物の思いなどを表すことができているところに、感動しました。

「赤鬼」の中の登場人物はすべて個性的な人たちばかりで、ドキドキしたりハラハラしたりワクワクしたり、飽きることなく最後まで見ることができました。演劇というものに興味をもつことができました。

内容が難しい、レベルの高い劇だと思いました。「人権について考える」がテーマかなと思いました。

だが、自分にとっては「本当の鬼は何なのか」がテーマとなっていました。「鬼だから人を喰うんじゃない、人を喰うから鬼なんだ」というセリフがありましたが、結局人を喰ってしまった自分に絶望して生きる価値を失ってしまった、そう感じました。

たった4人で、同じ人なのに人物が変わったよ

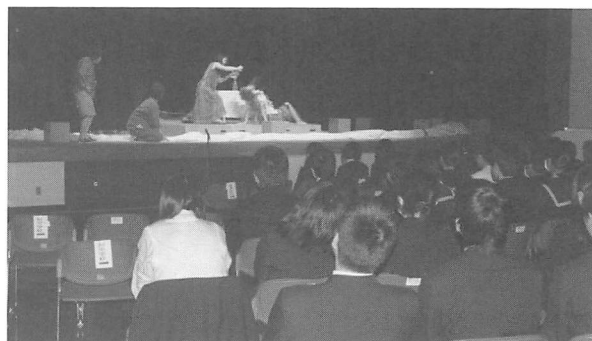


うに何役も演じ、約2時間にも及ぶ劇が成り立っていることに驚いた。赤鬼は外国人という設定だが、初めて外国人が日本に上陸したときの様子を見ているようだった。赤鬼に日本語の意味を理解してもらうために言葉やジェスチャーを何度も繰り返している姿がとても印象に残った。今でこそ通訳できる人というのは多いのでさまざまな国の人が関わることができるが、昔の人はお互いを理解することに必死だったんだろうなと思った。面白かったのであつという間の2時間だった。

TVなどではなく生で見る方が迫力があり、引きつけられるということが体験できました。一つひとつの表現について、後から考えるとその意味がわかるところがあり、演劇の奥の深さについて触れることができました。

ナレーションで説明しないのにキャラクターの

感情が伝わってきて、思わず見入ってしまいました。話の内容は暗く、ムラのもつ変な文化性や、結末のエグいところがみえましたが、それをシリアスなだけに見せない、ユーモアやキャラクターにより明るく見せるところが素晴らしいと思いました。絶望感漂うラストを兄の明るいキャラクターに語らせることでより強い悲壮感を感じさせられ、見終えた後もしばらく茫然としてしまいました。



《自主事業》【巡回演劇公演】宇部芸術座

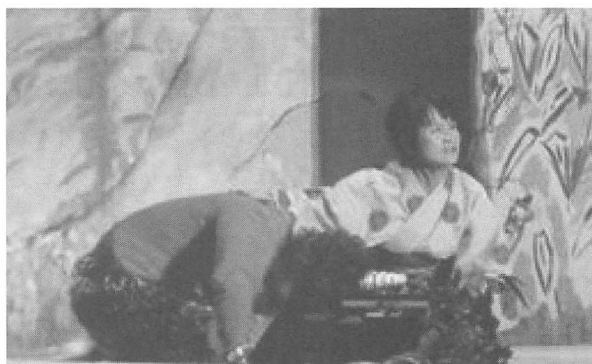
宇部中央高等学校

劇を鑑賞して家族を大切にしないといけなく改めて思いました。それと同時に家族だから何でも分かっていると思うのではなく1人1人考えていることが違うということも理解してあげないといけないことがよく分かりました。赤鬼は世間的に怖いと思われがちですが今回の劇のべっかんこ鬼はとても心の優しい鬼でした。なので人を見かけで判断するのではなく相手の心を理解することが大切だと思いました。ゆきさんのことを思って鬼を撃ってしまったおじいさんの気持ちはとてもよく分かります。相手のことを思って行動したことが裏目に出て、相手を傷つけてしまうことは日頃生活している中でもあります。どうしたら一番みんながいい気持ちになるかすぐには私には分からないけど、相手の気持ちを考えて行動することは私にもできることなので今日から行動に移したいと思いました。

今回の劇を鑑賞して家族や友達、周りの人を大切にしていきたいと思いました。

劇団の人たちの演技力がすごいなと思いました。

一緒に出演していた宇部中央の演劇部の人たちの演技も上手ですごかったです。話の内容は難しいけど心に響くものがありました。鬼がゆきの目のために命をかけて花を取りに行く場面はとても感動的でした。最後に夫（鬼）を殺した自分の父を見て、ゆきが「お前は鬼だ」と言った台詞は、人間も心が鬼になってしまうことはよくあることなのではないかと考えさせられました。大切な夫の命を奪ったゆきの父は、ゆきにとっては鬼かもしれないけど、大切なゆきを奪った鬼は、ゆきの父にとって鬼だったと思います。ゆきの気持ちにも父の気持ちにも共感できたので複雑な思いになりました。



私は村娘1を演じさせていただきました。劇団の方と共演させていただけると聞いたときは、大丈夫かなと不安な部分もありました。けれども皆さんはとてもあたたかく迎えてくださり、すぐにその場になれることができました。本公演では高校演劇とは全然違うセットや照明、音響。勉強になりました。とても貴重な体験ができてすごく嬉しいです。

正しさとは視点が違うと変わってしまうということを、この劇を見て思いました。親は娘のために鬼を退治したけれど、娘は鬼を討たれて「お前



は鬼だ！」と親に向かって叫ぶというところが、それを象徴していると思います。本当に正しい選択とは何か、幸せとは何か。殺された鬼はとても切なく見えました。

《補助事業》【吉田豊ジャズコンサート】

熊毛南高等学校

今日の鑑賞会は本当に楽しかったです。

私はジャズを吹いたことはあるけれど、今日のようなものは吹いたことがなかったので、良い経験になりました。

楽譜に忠実に吹くことしか考えていなかったのですが、今日のはアドリブとか自由に吹いて！と言われて内心ものすごく戸惑ってしまい、練習のとき、全く吹けなかったけれど、本番では私たちが吹く前の演奏を聴いて、あんなふうにしたように吹ければいいんだと思うと、少し楽になって、ステージでは気持ちよく吹くことができました。皆さんの演奏する曲は、本当に自分たち自身が楽しんでいるというのが伝わるようなもので、聴いている方ももちろん楽しいし、熊南の校歌の編曲もいろんな感じの曲になるんだなと思いながら聴いていて、おもしろかったです。

吹奏楽をやっていると、時々ジャズの曲に会うこともあると思うので、もし機会があれば今日やったことを思い出して、楽しい気持ちで吹こうと思います。そして、もしまた機会があれば、メンバーの皆さんとまた一緒に演奏したいです。

今日は本当に楽しかったです。ありがとうございました。

今までにジャズを聞いたことは何度かあったけれど、プロの人と一緒に演奏させてもらうことは

ありませんでした。また、私のジャズのイメージは大人でおしゃれなイメージでした。しかし、今回の体験でジャズについてのイメージがほとんど変わりました。

まず、鑑賞では様々な曲を聴いた。校歌をいろいろな音楽で表現するとき、本来の校歌と雰囲気は全く違っていてびっくりしました。拍の取り方や少しリズムを変えるだけで、とても雰囲気が変わり、いろいろな音楽を知りたいなと思いました。後半は、一緒に演奏させて頂きました。打ち合わせの時、楽譜が変わったりアドリブがたくさん入ったりしたので、正直不安でした。でも、「アドリブは気持ちを表現する」とおっしゃっているのがとても心に残りました。打ち合わせと本番でプロの方のアドリブのソロの所が違ったので、打ち合わせで聞いた言葉は本当なんだと思い、ジャズの魅力の1つだなと思いました。本番は2曲を演奏させて頂きました。ジャズは普段自分がやっている吹奏楽とは違い、指揮がなく、周りを見てテンポを合わせていました。その時、プロの方と目が合ったとき、笑って下さり、それだけですごく安心して吹くことができました。また、間近で聞くことができ、本場の音楽に触れ、鳥肌が立ちました。はやく細かい音を弾いたり吹いたり、すごく細かいロールをしたり、低い音を響かせたり、技術はもちろん、音の響きや出方がすごく違っているのがわかりました。自

分たちもその中で演奏するうち、普段は出さないような音や、大きな音、アドリブなど、いつもの熊南吹奏楽部とは違うようでした。私も、普段は音程を気にして吹いていましたが、今日のA列車の最後ののぼしなど、いつもでは考えられないくらいばんばん吹いていました。ジャズはおしゃれで大人っぽい曲だと思っていたのに、こんなに盛り上がり熱くなるものなんだと思いました。

また、アンコールでは、飛び入り参加させてもらい、知らない曲なのにサックスのレイモンドさんに音とリズムを教えてもらっただけで、その曲、演奏を楽しむことができました。プロの方たちは打ち合わせ、演奏中もつねに観客の様子を見て、どうすれば盛り上がるのかなどを考えている姿が印象的でした。私は熊南吹奏楽部の演奏を、音楽

や吹奏楽に興味がない人でも楽しめる演奏にしたいと思っているので、とても参考になりました。

今回は本当によい体験をすることができました。ジャズの深さ、楽しさを知り、またジャズに触れたいです。井上功一さん、レイモンド・マクモーリンさん、吉田豊さん、岩崎壮平さん、ぜひまた一緒に演奏したいです。

本当にありがとうございました。



《補助事業》【吉田豊ジャズコンサート】

周防大島高等学校

ジャズを聴く機会はあまりないので、とても貴重な生コンサートでした。音楽がとても素晴らしく、演奏者にもユーモアセンスがあり、楽しい時間を過ごすことができました。最後の吹奏楽部とのコラボもとてもノって聴くことができ、アンコールにも応えていただいて、本当に素晴らしかったです。また来てほしいと思いました。

今日は初めてジャズを聴いて、本当に本当に楽しかったです。周防大島高校の校歌をジャズにアレンジしてくださったり、ハッピー・バースデーの曲をボサノバとかラテン、スイングなどのリズム

ムに変えて、それぞれの違いを分かりやすく表現してくださったりして、とても興味が持てました。みんなと一緒にリズムに乗ったり手拍子をしたりして、音楽の素晴らしさを感じることができました。



《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

宇部西高等学校

初めて生演奏でクラシックを聴きました。今日という日が本当に楽しみで仕方ありませんでした。藤田さんの第一声を聴いた時、鳥肌が立ちました。高校3年間、野球一筋だったとは思えないほどの美声で本当に驚きでいっぱいでした。表情から呼吸から全て素晴らしくて、それぞれの歌への想いが伝わって涙が出そうになりました。きつ

ともうこんな経験は二度とないだろうと思うといい機会だったなと思いました。私は特に「瑠璃色の地球」を知っていたので、一番心に残りました。本日はありがとうございました。

音楽の授業などでテノール歌手の人やオペラを観たことはありましたが、実際に生でテノール歌

手の方が歌ってくださるのを聴くのは初めてだったので、とても楽しみにしていました。今日歌ってくださった曲の中の「瑠璃色の地球」は音楽の授業で聴いて歌ったことがあるのですが、歌う方によって表現方法が違うので面白かったです。

「あんこまパン」という曲は初めて聴いた曲だったのですが、とてもインパクトがあり思わず笑ってしまいました。私も、歌手ではないですが将来音楽に関係する表現者になりたいと思っているので、今日コンサートを聴いて、いろんなことを発見できたのですごく良かったです。今日は遠いところからありがとうございました。今日の貴重な体験は一生忘れません。

すごく貴重な体験ができて、良かったです。普段から生で聴いてみたいと思っていたので、今日のコンサートはすごく嬉しかったです。歌だけで

なく、お話もすごく聴いていて楽しかったです。「あんこまパン」を歌ってらっしゃる時、曲の途中なのに笑ってしまいました。知っている曲も少し雰囲気違って、それも面白いなと思いました、藤田さんの歌声と秦さんのピアノにはれはれし、感動しました。

これからもお仕事頑張ってください。



《補助事業》【藤田卓也テノールコンサート】

長府高等学校

今日のコンサートは、曲の雰囲気などが私にとって大変理解しやすいものでした。ビブラートなど、藤田さんの歌い方だけでなく、顔の表情も豊かで感情がすごく伝わってきました。また、声量があり、のぼしている声で会場の空気が揺れているように感じました。はじめはマイクを使っているのかと思いました。生声であんなに響きがあり、まるで体全体が楽器のようだと感動しました。藤田さんの歌を聴いて一番すごいと感じたことは表現力です。言葉で分かりにくい曲でも喜怒哀楽が伝わってきたように感じました。音楽だからこそ伝えられるのだろうと音楽の素晴らしさを再認識しました。それから、藤田さんがおっしゃっていた「世の中に光を与える人」に私も吹奏楽という音楽を通して、なりたいと思います。まだまだできないこともやるべきことも沢山ありますが、日々頑張って、まずは「誰か」に光を与えられる演奏をしたいです。

今日のコンサートを聴いて生の歌声の迫力に圧倒されました。全身で曲を表現している姿が印象的で、力強い歌声にすぐに引き込まれ、一時間ほどのコンサートがあっという間に感じられました。私

は本校の生徒が共演した『瑠璃色の地球』が心に残っています。この曲は初めて聞いたのですが、美しいハーモニーと歌詞がぴったりと合っていて、聞いただけで優しい気持ちになるような歌声にとっても感動しました。高校生の頃、文化祭でアカペラをしたことがきっかけで音楽を勉強することを決めたという話を聞き、音楽は人の心を動かす強い力を持っているのだと思いました。私も高校生の間で将来の目標を見つけることができれば素敵だと思いました。

生でプロの方の歌声を聞くことは滅多にできないことなので今日のコンサートは大変貴重な体験になりました。そして、音楽のすばらしさを肌で感じる事ができ、今後忘れることができない思い出になりました。



山口県高等学校文化連盟自主事業等実施校一覧 (No.1)

数字は実施年度(62～63は昭和、1～23は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	劇団海峡座	
1	周防大島 安下庄校舎	63, 7, 25	4, 10	10, 21			26
	久賀校舎	63	3				
2	岩国	1					
	坂上分校	63, 11	5, 26	3			
	広瀬分校	63, 14, 21	17	20, 26			
3	岩国総合	1	11				
4	高森		2				
5	岩国商業	3		62, 15			
	定時制東分校						
6	岩国工業		2	6, 8			
7	柳井		7	11			19
8	柳井商工		11, 14	1, 4, 11, 14			
9	熊毛南	63, 19(分)	6, 17	12, 24			20, 26
10	田布施農工	15(分), 18(分)	3, 18, 20	5, 24	16		22
11	光	63, 20(定)	8, 23	17			21
12	光丘		8, 11		14		
13	下松	63, 7, 12	15				
14	華陵	63	8	1			
15	下松工業		1				
16	熊毛北		2, 14	63, 7			
17	徳山	4(定), 8(定), 10(定)	15		12		
	徳山北分校	63, 21	4, 11	8			20
	鹿野分校	3, 10	9	1, 16			
18	新南陽	63	22	25	5	14	19
19	徳山商工	63, 1, 5		3, 4	7		
20	南陽工業	1	62				
21	防府						23
	佐波分校	63, 7					
22	防府西	1	10				
23	防府商工	63(定), 1	12			6	
24	山口	62(定), 15(定), 16(定)	2				
	徳佐分校	63(分), 25	63, 10, 20	13			
25	山口中央	63, 10, 12, 13					22
26	西京	62	4		7		
27	山口農業		5, 21		3	24	
28	宇部	63					
29	宇部中央	1(定), 14(定)	10, 19		63, 26		23
30	宇部西		14		10, 23		26
31	宇部商業	63	62, 6		3		
32	宇部工業	2, 13	8				
33	小野田	63(定), 19(定)			22	25	
34	厚狭	1	15, 21			9, 18	
35	小野田工業	63(定)				4	
36	美祢	62, 9, 18, 23	4		2		
37	青嶺・美祢青嶺	4, 22	63		17, 20	10	
38	田部		1, 13		18	20	

山口県高等学校文化連盟自主事業等実施校一覧 (No.2)

数字は実施年度(62～63は昭和、1～23は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	劇団海峡座	
39	西市		63	22			23
40	豊浦						
41	長府	1					26
42	下関西						19
43	下関南	22					
44	響	5	1				
45	豊北	62	3			15, 22	
46	下関中央工業		12			6	
47	下関工業	62	25			2	19, 20, 22
48	大津緑洋 大津校舎	63	12		5		
	日置校舎	63, 5, 9, 15	19		25	2, 13, 23	22
	水産校舎		12				
49	萩	63	3			6	24
50	萩商工	63	6, 7, 16	23	9	2, 4, 12, 17	
51	奈古	11, 17(分)	1, 9, 24			26	
52	下関中等教育				5		
53	岩国総合支援	3, 13, 16	24	10, 19			
54	田布施総合支援	6, 17	62				
55	周南総合支援	15, 17, 20					
56	徳山総合支援	1, 11					
57	防府総合支援	62, 63, 3, 12, 26	16				
58	山口南総合支援						
59	山口総合支援	19	14				
60	宇部総合支援	63, 5, 14	1, 9	18			
61	下関南総合支援	63, 3, 8, 10, 16	7, 25			1	
62	下関総合支援	2, 6	16				
63	豊浦総合支援	11, 13, 16, 23	26			19, 21	20
64	萩総合支援	6, 24					
65	下関商業	14(定)					
66	高水			62			
67	柳井学園	6		63			
68	聖光		2				
69	山口県桜ヶ丘						
70	誠英				7	9	
71	高川学園						
72	中村女子	63	2, 5, 22		11	16	
73	野田学園	63	18				
74	山口県鴻城		10		12, 15		
75	宇部鴻城		7		9		
76	慶進		23				21
77	成進						
78	宇部フロンティア香川		1, 5, 15		11, 19		
79	サビエル						
80	早鞆						
81	下関短期大学付属	62, 63, 4, 7, 24, 26			8		
82	長門		6				
83	萩光塩学院						

平成26年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

※斜体は事務局関係

月	日	事業	会場
4	10	会計監査	山口中央高校
	22	平成25年度「高文連会報」発行 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校
5	9	高文連評議員会	山口市：セントコア山口
	20	平成25年度集録「高文連」発行	
24 ~	25	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：ホテルフロラシオン青山
	24	県高校総合文化祭（将棋部門）	防府市文化福祉会館
	24	県高校総合文化祭（小倉百人一首かるた）	小野田高校
6	9	自主事業 青少年劇場小公演「リコーダーとともに」	下関短期大学付属高校
	12	第36回県高校総合文化祭総合開会式	下関市民会館
13 ~	14	県高校総合文化祭音楽4部門発表会	下関市民会館
	14	県高校総合文化祭（日本音楽部門）	山口市市民会館
	25	自主事業 青少年劇場小公演「となりの国の打楽器と踊り」	防府総合支援学校
	25	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	岩国高校坂上分校（会場：ハーモニーみわ）
	27	第25回中国地区高文連関係者合同会議	鳥取県米子市：米子コンベンションセンター
7	27 ~ 31	（公社）全国高等学校文化連盟各専門部会	茨城県
	27 ~ 31	第38回全国高等学校総合文化祭	茨城県
	28	（公社）全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	茨城県：つくば市
8	30 ~ 31	第25回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9			
10	8	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	奈古高等学校（会場：阿武町民センター）
	16	県高校総合文化祭（文芸部門）	徳山高校
25 ~	26	県高等学校総合文化祭（演劇部門）	防府市公会堂
25 ~	26	第17回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	鳥取県大山町：大山町保健福祉センター
	26	県高校総合文化祭（囲碁部門）	徳山商工高校
	27	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	宇部西高校
	28	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	長府高校
	31	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	豊浦総合支援学校
11	4	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	周防大島高校（会場：橘総合センター）
	5	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	熊毛南高校
7 ~	9	県高校総合文化祭（写真部門）	新南陽ふれあいセンター
	8	県高校総合文化祭（放送部門）	ニューメディアプラザ山口
8 ~	9	県高校総合文化祭（書道部門）	宇部市文化会館
8 ~	9	山口県中学校文化連盟第10回総合文化祭	シンフォニア岩国
	13	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	岩国高校広瀬分校
14 ~	16	県高校総合文化祭（美術・工芸部門）	宇部市：ときわ湖水ホール
	18	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	宇部中央高校
	22	第16回高校生文芸道場中国ブロック大会	広島県福山市：まなびの館ローズコム
	28	第1回高文連専門部理事長会	山口中央高校
12	4 ~ 5	第26回全国高等学校文化連盟研究大会(岐阜大会)	岐阜市：岐阜市文化センター
	5	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	岐阜市：岐阜市文化センター
	13 ~ 14	第13回中国地区高等学校将棋選手権大会	鳥根県松江市：松江テルサ
	20 ~ 21	第18回中国高等学校囲碁選手権大会	鳥取県倉吉市：倉吉体育文化会館
	20 ~ 21	第52回中国地区高等学校演劇発表会	鳥根県松江市：鳥根県民会館中ホール
1	28	第2回高文連専門部理事長会	山口中央高校
	30 ~ 1	第22回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	北海道函館市：花びしホテル
2	19	第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	17	平成26年度中国地区高文連実務担当者会議	鳥取県米子市：米子西高校
		平成26年度「高文連会報」発行	
	28	第34回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート	サンビームやない
【その他】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式（豊浦高校）・音楽4部門発表会（下関商業高校・下関地区） 美術・工芸部門（宇部高校）、書道（宇部西高校）、写真（新南陽高校） 日本音楽部門（野田学園高校） 囲碁部門（徳山商工高校） 文芸部門（徳山高校） ※以上、主管校等を中心に開催 各専門部会……………部会長校を中心に開催 各専門部研修会……………県下各地において開催 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室（山響）2公演 ※青少年劇場小公演2公演 ※補助事業4公演			

平成26年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

収入総額	20,272,266
支出総額	17,288,174
差引残高	2,984,092

収入の部				(単位:円)
区 分	予 算 額	決 算	増減(減△)	摘 要
繰越金	4,024,011	4,024,011	0	
会費	12,179,000	12,191,500	12,500	
(内訳)	12,005,000 70,000 104,000	12,021,800 67,000 102,700	16,800 △ 3,000 △ 1,300	全日制350円×34,348人 定時制・総合支援学校 50円×1340人 学校負担金 100円×1027学級
補助金	4,244,000	3,901,325	△ 342,675	
(内訳)	584,000 3,660,000	584,000 3,317,325	0 △ 342,675	県総文祭補助金 全総文祭補助金
参加負担金	144,000	139,000	△ 5,000	全総文祭
繰入金	0	0	0	
雑収入	8,989	16,430	7,441	定期利息、同窓会からコピー機利用料として入金等
合 計	20,600,000	20,272,266	△ 327,734	

支出の部				(単位:円)
区 分	予 算 額	決算額	残高(超過△)	摘 要
運営費	1,925,000	1,533,338	391,662	
(内訳)				
事務費	400,000	302,106	97,894	事務機器維持費 事務用品 ホームページ維持管理費
通信費	350,000	313,742	36,258	電話 郵便 運送料等 傷害保険料
分担金	525,000	521,400	3,600	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
賃金	650,000	396,090	253,910	事務補助賃金
会議費	1,700,000	1,607,820	92,180	全国(県外)会議 県内会議 会議用お茶 中国地区会議 研究大会参加費
事業費	16,340,200	14,090,896	2,249,304	
(内訳)				
県総文祭	6,420,000	5,385,725	1,034,275	総合開会式及び各部門開催費
全総文祭	5,141,000	4,322,243	818,757	生徒旅費補助 引率旅費補助 運送費 参加負担金
自主事業	1,839,200	1,869,200	△ 30,000	自主事業 7公演
大会補助金	50,000	50,000	0	特別支援学校文化祭
専門部会費	2,490,000	2,065,532	424,468	全国分担金 研修費 役員旅費・保険
印刷費	390,000	383,940	6,060	集録、会報、県総文誌 マナー 賞状
中高連携費	10,000	14,256	△ 4,256	中高文連交流事業
調整基金	0	0	0	
予備費	634,800	56,120	578,680	次年度県総文祭準備委員会旅費、かるた理事長中国大会派遣旅費等
合 計	20,600,000	17,288,174	3,311,826	

平成26年度 調整基金会計決算書

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
9,400,000	0	9,400,000

上記の通り相違ありません
平成27年 4月 13日

監事

監事

河本 太陽
清水 利宏

平成27年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事業	会場
4	13 21	会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	8 19 23 ~ 24 23	高文連評議員会 平成26年度集録「高文連」発行 公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会 県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：徳山高校) 県高校総合文化祭(小倉百人一首かるた)	山口市：セントコア山口 東京：アイビーホール 防府市文化福祉会館 小野田高校
6	1 9 11 12 ~ 13 20 22 26 30	自主事業「山口県交響楽団演奏会」 自主事業 青少年劇場小公演「リコーダーとともに」 第37回県高校総合文化祭総合開会式(主管：大津緑洋高校) 県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：大津緑洋高校・長北地区) 県高校総合文化祭「日本音楽部門」(主管：田布施農工高校) 自主事業 青少年劇場小公演「となりの国の太鼓と踊り」 第26回中国地区高文連関係者合同会議 自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	山口市徳地文化センター(防府高校佐波分校) 熊毛南高校 ルネッサながと ルネッサながと サンビームやない 山口高校徳佐分校 岡山県倉敷市： 小野田高校定時制
7	18 ~ 20 28 ~ 1 28 ~ 1 29	全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会 (公社)全国高等学校文化連盟各専門部会 第38回全国高等学校総合文化祭 (公社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	滋賀県 大津市 近江神宮 滋賀県 滋賀県 滋賀県：大津市
8		第26回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9	19 ~ 20 25	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：山口高校) 補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	山口市民会館 山口高校(山口市民会館)
10	1 2 5 5 8 8 14 24 ~ 25 25 28 30 ~ 1	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」 補助事業「吉田豊ジャズコンサート」 補助事業「吉田豊ジャズコンサート」 自主事業 巡回演劇「劇団のんた」 自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」 県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：徳山高校) 県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：下関西高校) 県高校総合文化祭「囲碁部門」(徳山商工高校) 自主事業「山口県交響楽団演奏会」 第18回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会	周防大島高校(橘総合センター) 宇部西高校 豊浦総合支援学校 柳井商工高校 西市高校 徳山高校 下関市民会館 徳山商工高校 田布施農工高校 広島県呉市：総合体育館オークアリーナ武道場
11	6 6 ~ 8 7 7 ~ 8 14 ~ 15 13 ~ 15 20 ~ 22 21 ~ 22 30 ~ 1	第17回高校生文芸道場中国ブロック大会 県高校総合文化祭「写真部門」(主管：新南陽高校) 県高校総合文化祭「放送部門」(主管：光高校) 山口県中学校文化連盟第11回総合文化祭 周防大島大会 第35回近畿高等学校総合文化祭(鳥取大会) 県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：岩国総合高校) 第1回高文連専門部理事長会 第35回近畿高等学校総合文化祭(鳥取大会) 第53回中国地区高等学校演劇発表会 第27回全国高等学校文化連盟研究大会(愛媛大会)	鳥根県出雲市：ビッグハート 新南陽ふれあいセンター ニューメディアプラザ山口 周防大島町大島文化センター 鳥取県内各地 シンフォニア岩国 山口中央高校 鳥取県内各地 広島県広島市：アステールプラザ 愛媛県松山市：ひめぎんホール
12	1 19 ~ 20 19 ~ 20	全国高等学校文化連盟実務担当者会議 第19回中国高等学校囲碁選手権大会 第14回中国地区高等学校将棋選手権大会	愛媛県松山市：ひめぎんホール 広島県尾道市：備後運動公園体育館 広島県広島市：
1	30 ~ 31	山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会 第1回中国地区高等学校放送コンテスト 第2回高文連専門部理事長会	山口中央高校または大殿中学校 広島県広島市：アステールプラザ 山口中央高校
2		第2回高文連企画運営委員会	山口中央高校
3	28	平成27年度中国地区高文連実務担当者会議 マーチングバンド・バトントワリング講習会 第35回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：岩国高校)	岡山県総社市：岡山県立総社南高等学校 シンフォニア岩国
【その他】		各専門部会……部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演 ※青少年劇場小公演2公演 ※補助事業4公演	

平成27年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

収入総額	¥20,593,000
支出総額	¥20,593,000

収入の部		(単位；円)		
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(減△)	摘 要
繰越金	2,984,092	4,024,011	△ 1,039,919	
会 費	12,073,000	12,179,000	△ 106,000	
(内訳)	11,903,500 67,500 102,000	12,005,000 70,000 104,000	△ 101,500 △ 2,500 △ 2,000	全日制350円×34,010人 定時制・総合支援学校 50円×1,350人 学校負担金 100円×1,020学級
補助金	4,899,000	4,244,000	655,000	
(内訳)	525,000 4,374,000	584,000 3,660,000	△ 59,000 714,000	県総文祭補助金(ルネッサながと) 全総文祭補助金(滋賀県)
参加負担金	136,000	144,000	△ 8,000	全総文祭
調整基金から繰入	500,000	0	500,000	
雑収入	908	8,989	△ 8,081	利息等
合 計	20,593,000	20,600,000	△ 7,000	

支出の部		(単位；円)		
区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(減△)	摘 要
運営費	1,820,600	1,925,000	△ 104,400	
(内訳)				
事務費	400,000	400,000	0	事務機器維持費 事務用品 ホームページ維持管理費
通信費	350,000	350,000	0	電話 郵便 運送料等 傷害保険料
分担金	520,600	525,000	△ 4,400	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
賃 金	550,000	650,000	△ 100,000	事務補助賃金
会議費	1,700,000	1,700,000	0	全国(県外)会議 県内会議 中国地区会議(事務局、かるた、文芸)研究大会参加費 県総文祭次年度準備委員会 会議用お茶
事業費	15,387,200	16,340,200	△ 953,000	
(内訳)				
県総文祭	6,250,000	6,420,000	△ 170,000	総合開会式 各部門大会開催費
全総文祭	4,380,000	5,141,000	△ 761,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運送費 参加負担金
自主事業	1,839,200	1,839,200	0	自主事業7公演 補助事業4公演
大会補助金	50,000	50,000	0	特別支援学校文化祭
専門部会費	2,523,000	2,490,000	33,000	研修費 全国分担金 役員旅費・保険等
印刷費	330,000	390,000	△ 60,000	集録 会報 県総文ボスター 賞状
中高連携費	15,000	10,000	5,000	中高文連交流事業
調整基金	0	0	0	
予備費	1,685,200	634,800	1,050,400	
合 計	20,593,000	20,600,000	△ 7,000	

平成27年度 調整基金会計予算書

(単位；円)

前年度繰越	一般会計へ繰出	今年度末残高
9,400,000	500,000	8,900,000

山口県高等学校文化連盟規約

昭和62年4月1日制定
平成元年4月1日改正
平成2年4月1日改正
平成3年4月1日改正
平成4年4月1日改正
平成6年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成9年4月1日改正
平成15年4月1日改正
平成16年4月1日改正
平成18年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成21年4月1日改正
平成22年4月1日改正
平成23年5月6日改正
平成25年5月10日改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目 的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業。
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校（中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。）並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠
剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一首かるたの
各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|------------|-----------|
| (1) 会 長 | 1 人 |
| (2) 副会長 | 若干人 |
| (3) 評議員 | 各加盟校ごとに1人 |
| (4) 支部長 | 7 人 |
| (5) 専門部会長 | 16人 |
| (6) 専門部理事長 | 16人 |
| (7) 監 事 | 2 人 |
| (8) 参 与 | 若干人 |

(役員の選出)

第8条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会 議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 企画運営委員会
- (3) 理事長会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経 費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運 営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟諸規程

[会 計 規 程]

昭和62年 4 月 1 日制定
平成 4 年 4 月 1 日改正
平成 5 年 4 月 1 日改正
平成 8 年 4 月 1 日改正
平成20年 4 月 1 日改正
平成23年 5 月 6 日改正

- 第 1 条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第 2 条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第 3 条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第 4 条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。
- 第 5 条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第 6 条 各高等学校は、毎年 5 月31日までに、加盟費を納入するものとする。
- 加盟費内訳
- ①各高等学校生徒数に以下の金額を乗じたもの
 - (全日制生徒) 350円
 - (定時制、特別支援学校高等部生徒) 50円
 - ②各学校の学級数に100円を乗じたもの。(定時制、特別支援学校は除く)
- 第 7 条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める

附 則

この規程は、昭和62年 4 月 1 日から実施する。

[事 務 局 規 程]

昭和62年 4 月 1 日制定
昭和62年 7 月14日改正
平成23年 5 月 6 日改正

- 第 1 条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第 2 条 事務局に次の職員を置く。
- (1) 事務局長
 - (2) 事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係
- 第 3 条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第 4 条 事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第 5 条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。
- 第 6 条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第 7 条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第 8 条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第 9 条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年 4 月 1 日から実施する。

山口県高等学校文化連盟表彰規程

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

平成15年4月1日改正

平成18年4月1日改正

平成24年5月11日改正

平成25年5月10日改正

平成26年5月9日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、各専門部において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。表彰は退職する年度または退職後に行う。ただし、専門部理事長を3期6年勤めた者は退任時に表彰することができる。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、第10条功績賞対象者のうち、全国高等学校総合文化祭表彰規定により表彰された部の

指導を行った者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。
本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

[旅費支給基準]

昭和62年 4 月 1 日制定

昭和63年 4 月 1 日制定

平成元年 4 月 1 日制定

平成11年 4 月 1 日改正

平成13年 4 月 1 日改正

平成16年 4 月 1 日改正

平成22年 4 月 1 日改正

第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。

第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費は引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）+宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

[調整基金細則規程]

第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。

第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。

第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。

第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の決議によりこれを処分することができる。

附 則

1 この規程は、昭和62年 4 月 1 日から施行する。

2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

平成26年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長	西 村 佳 子 藤 澤 正 信 倉 田 伸 治 中 村 芳 喜		山 口 中 央 高 校 山 口 山 井 高 校 山 口 柳 井 高 校 山 口 早 軺 高 校
参 与 支 部 長	伴 浩 一 松 根 健 治 倉 田 伸 治 藤 澤 正 信 宮 地 政 利 岩 本 龍 治 田 坂 祐 治 中 村 充 範	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 防 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 長 北 支 部	山 口 高 校 岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 防 府 高 校 宇 部 高 校 下 関 西 高 校 下 萩 高 校
専 門 部 会 長	岩 山 龍 治 牛 根 博 司 岩 見 正 彦 佐 本 龍 治 河 藤 知 紀 （ 村 茂 実 ） 倉 田 伸 治 田 坂 祐 治 須 藤 恒 史 河 村 隆 夫 奈 迫 忠 昌 伊 藤 隆 信 藤 澤 正 信 岩 本 龍 治 山 根 博 司	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パトントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 将 棋 部 門 放 送 部 門 文 芸 部 門 自 然 科 学 部 門 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門	宇 部 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 宇 部 高 校 山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 短 期 大 学 付 属 高 校 柳 井 高 校 下 関 西 高 校 新 南 陽 高 校 徳 山 商 工 高 校 下 松 高 校 光 丘 高 校 徳 山 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校
専 門 部 理 事 長	新 竹 伸 芳 飯 田 幸 生 田 中 睦 陸 志 道 博 資 内 田 良 一 吉 原 達 也 （ 休 部 ） 濱 崎 洋 子 河 合 和 利 尾 崎 勝 史 河 口 明 樹 岡 田 茂 樹 石 田 千 晶 桑 原 千 恵 大 田 和 子 青 池 のぞみ	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・パトントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 将 棋 部 門 放 送 部 門 文 芸 部 門 自 然 科 学 部 門 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門	宇 部 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 宇 部 高 校 山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 短 期 大 学 付 属 高 校 柳 井 高 校 下 関 西 高 校 新 南 陽 高 校 徳 山 商 工 高 校 下 松 高 校 光 丘 高 校 徳 山 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校
監 事	河 本 太 司 山 本 貴 司		防 府 商 工 高 校 西 京 高 校
事 務 局 長 事 務 局 次 長 事 務 局 員 (会 計) 事 務 局 員 (庶 務)	西 村 正 浩 中 村 聖 晴 佐 々 木 靖 子 佐 賀 ひろ子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 託

平成27年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長	吉 本 晃 倉 田 伸 治 小 林 真 理 中 村 芳 喜		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校
参 与 支 部 長	伴 浩 一 奈 迫 忠 夫 小 林 真 理 倉 田 伸 治 宮 地 政 利 岩 本 龍 治 首 藤 裕 司 西 村 佳 子	岩 国 支 部 柳 井 支 部 德 山 支 部 山 防 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 長 北 支 部	山 口 高 校 山 口 高 校 山 口 高 校 山 口 高 校 山 口 高 校 山 口 高 校 山 口 高 校
専 門 部 会 長	岩 本 龍 治 斎 藤 嗣 夫 牛 見 正 彦 岩 本 龍 治 岩 本 龍 治 小 林 真 理 (休 部) 小 林 真 理 大 木 恒 史 須 藤 恒 史 河 村 隆 治 倉 田 伸 治 河 口 郁 史 倉 田 伸 治 岩 本 龍 治 尾 崎 敬 子	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチンクバンド・バトントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 将 棋 部 門 放 送 部 門 文 芸 部 門 自 然 科 学 部 門 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門	宇 部 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 宇 部 高 校 宇 部 高 校 柳 井 高 校 (休 部) 柳 井 高 校 下 関 中 等 教 育 学 校 新 南 陽 高 校 德 山 商 工 高 校 德 山 高 校 光 山 高 校 德 山 高 校 宇 部 高 校 小 野 田 高 校
専 門 部 理 事 長	新 竹 伸 芳 秋 本 隆 睦 田 中 睦 資 志 道 博 資 志 道 博 資 杉 尾 文 子 (休 部) 濱 崎 洋 子 河 合 和 子 尾 崎 勝 利 河 口 明 史 弘 中 敏 之 德 永 志 保 桑 原 範 恵 大 田 和 子 青 池 のぞみ	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチンクバンド・バトントワリング部門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 将 棋 部 門 放 送 部 門 文 芸 部 門 自 然 科 学 部 門 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門	宇 部 高 校 下 関 南 高 校 野 田 学 園 高 校 宇 部 高 校 宇 部 高 校 柳 井 高 校 (休 部) 柳 井 高 校 下 関 中 等 教 育 学 校 新 南 陽 高 校 德 山 商 工 高 校 德 山 高 校 光 山 高 校 德 山 高 校 宇 部 高 校 小 野 田 高 校
監 事	河 本 太 清 水 利 宏		防 府 商 工 高 校 西 京 高 校
事 務 局 長 事 務 局 次 長 事 務 局 員 (会 計) 事 務 局 員 (庶 務)	西 村 正 浩 中 村 聖 晴 佐 々 木 靖 子 佐 賀 ひろ子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向 川 栄 美 作 詞

乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きっとだれかがささえてくれる
2. よびかければ ほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせ ー ば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
こころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



ほくらのぶんか を つく る ため ー に
ほくらのぶんか を きず く ため ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟
「高文連」編集委員 (平成26年度時点)

(各 部 門)

演 劇	新 竹 伸 芳	(宇 部 高 等 学 校)
器 楽 ・ 管 弦 楽	飯 田 幸 生	(下 関 南 高 等 学 校)
合 唱	田 中 睦	(野 田 学 園 高 等 学 校)
吹 奏 楽	志 道 博 資	(宇 部 高 等 学 校)
マーチングバンド・バトントワリング	内 田 良 一	(山 口 県 鴻 城 高 等 学 校)
日 本 音 楽	吉 原 達 也	(下 関 短 期 大 学 付 属 高 等 学 校)
美 術 ・ 工 芸	濱 崎 洋	(柳 井 高 等 学 校)
書 道	河 合 和 子	(下 関 西 高 等 学 校)
写 真	尾 崎 勝 利	(新 南 陽 高 等 学 校)
囲 碁	河 口 明 史	(徳 山 商 工 高 等 学 校)
将 棋	岡 茂 樹	(下 松 高 等 学 校)
放 送	石 田 千 晶	(光 丘 高 等 学 校)
文 芸	桑 原 範 恵	(徳 山 高 等 学 校)
自 然 科 学	大 田 和 子	(宇 部 高 等 学 校)
小倉百人一首かるた	青 池 のぞみ	(下 関 南 高 等 学 校)

事 務 局 長	西 村 正 浩	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 次 長	中 明 聖 晴	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 員 (総 務)	佐々木 靖 子	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 員 (庶 務)	佐 賀 ひろ子	(山 口 中 央 高 等 学 校)



平成26年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高 文 連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電 話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／山 田 紗矢佳
(山口中央高校3年)

